

第2章 日本人住民調査

第2章 日本人住民調査

I 調査回答者の属性

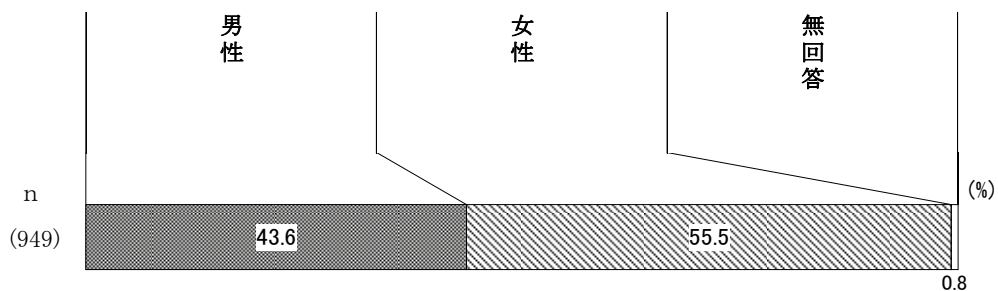
(1) 性別

◇男性が4割台半ば近く、女性は5割台半ば

問1 あなたの性別は次のどちらですか。(○は1つだけ。性別の回答は任意です。)					
[n=949]					
1	男性	43.6%	2	女性	55.5%
				(無回答)	0.8

調査回答者の性別は、「男性」(43.6%)が4割台半ば近く、「女性」(55.5%)が5割台半ばとなっている。(図表1)

<図表1>性別



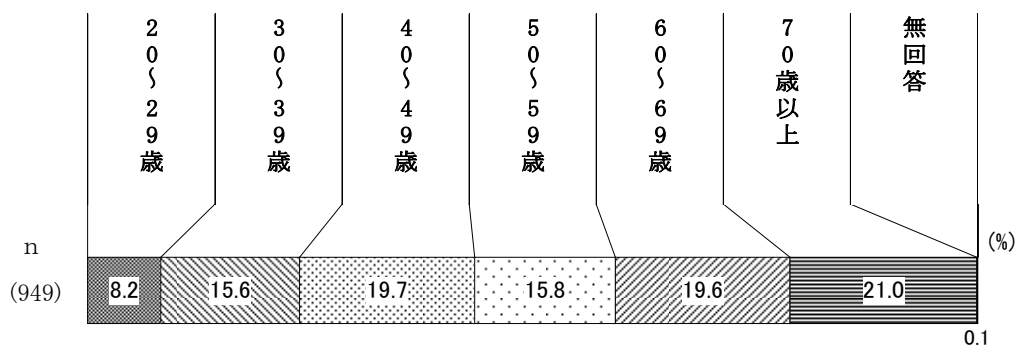
(2) 年齢

◇「70歳以上」は2割強、「40～49歳」と「60～69歳」が2割弱

問2 あなたの年齢は次のどれですか。(○は1つだけ)					
[n=949]					
1	20～29歳	8.2%	3	40～49歳	19.7%
2	30～39歳	15.6%	4	50～59歳	15.8%
			5	60～69歳	19.6%
			6	70歳以上	21.0%
				(無回答)	0.1

調査回答者の年齢は、「70歳以上」(21.0%)が2割強で最も高く、「40～49歳」(19.7%)と「60～69歳」(19.6%)が2割弱でおおむね並ぶ。(図表2)

<図表2>年齢



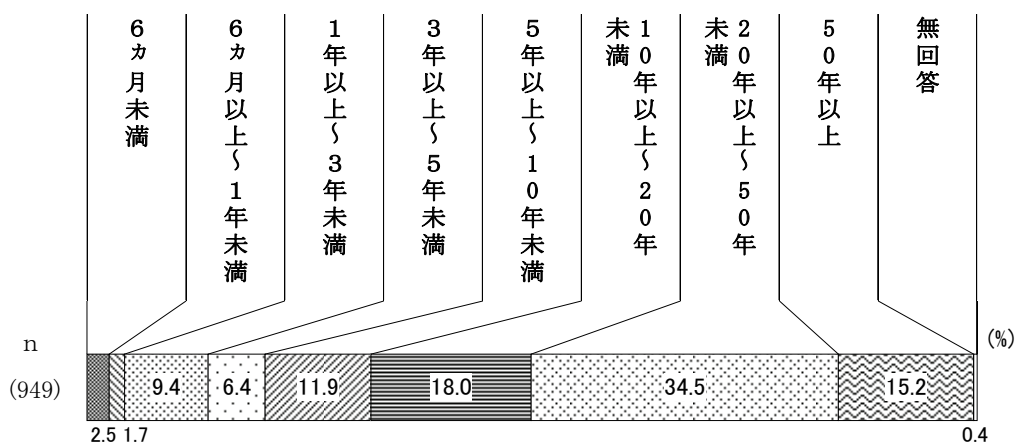
(3) 新宿での居住年数

◇ 「20年以上～50年未満」が3割台半ば近い

問3 あなたは新宿区に住んで何年になりますか。(○は1つだけ)					
[n=949]					
1	6ヵ月未満	2.5%	5	5年以上～10年未満	11.9
2	6ヵ月以上～1年未満	1.7	6	10年以上～20年未満	18.0
3	1年以上～3年未満	9.4	7	20年以上～50年未満	34.5
4	3年以上～5年未満	6.4	8	50年以上	15.2
				(無回答)	0.4

調査回答者の居住年数は、「20年以上～50年未満」(34.5%)が3割台半ば近く最も高くなっている。次いで「10年以上～20年未満」(18.0%)が2割近く、「50年以上」(15.2%)が1割台半ばである。(図表3)

<図表3>新宿での居住年数



(4) 同居人

◇一緒に住んでいる人は「配偶者又はパートナー」が5割台半ばを超え最も高い

問4 あなたが現在一緒に住んでいる人はどなたですか。(○はいくつでも)

[n=949]

1 配偶者又はパートナー	57.3%	5 友人・知人	0.5
2 子ども	31.6	6 その他	2.7
3 自分又は配偶者の親	13.0	7 いない	24.4
4 その他の親類	4.4	(無回答)	0.8

(問4で、「2 子ども」とお答えの方に)

問4-1 あなたのお子さんについて教えてください。()の中に人数を記入して下さい。

[n=300]

子どもの人数：()人

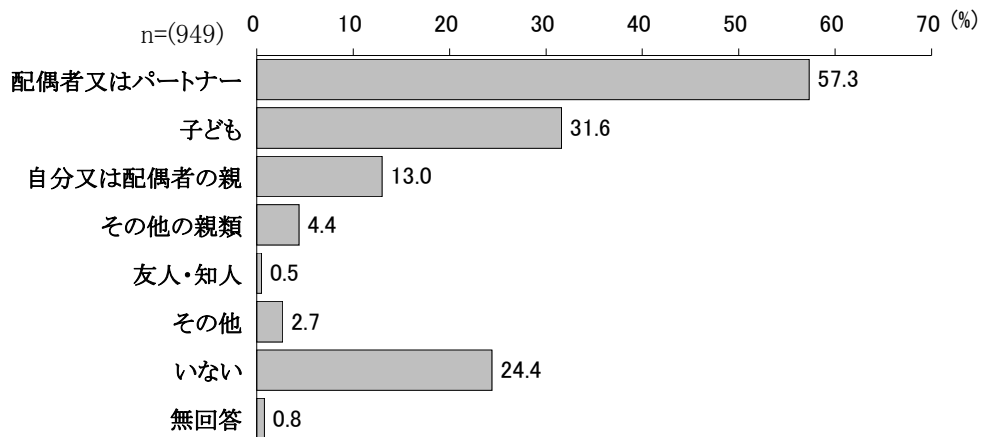
子どもの年齢：6歳未満()人 6歳～12歳()人 13歳～15歳()人

16歳～18歳()人 19歳以上()人

①同居人

調査回答者の同居人は、「配偶者又はパートナー」(57.3%)が5割台半ばを超え最も高くなっており、次いで「子ども」(31.6%)が3割強である。一方で、「いない」(24.4%)が2割台半ば近い。(図表4)

<図表4>同居人(複数回答)



②子どもの年齢

問4で、「子ども」が一緒に住んでいると回答した人数と、その子どもの各年齢に対する内訳は以下の表のとおりである。(図表5)

<図表5><図表6>子どもの人数と年齢(複数回答)

子どもと同居している人数	296
--------------	-----

年齢ごとの 子どもの人数	6歳未満	71
	6歳～12歳	56
	13歳～15歳	41
	16歳～18歳	40
	19歳以上	149

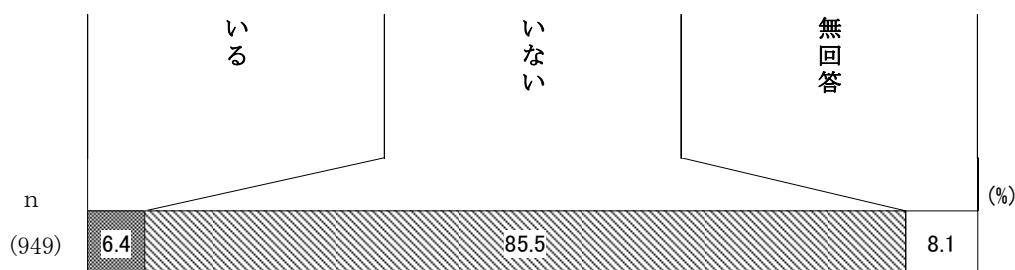
(5) 親類に外国籍の方や外国にルーツを持つ方の有無

◇親類に外国籍の方や外国にルーツを持つ方が「いる」は約6%

問5 あなたの親類(配偶者・親等)に、外国籍の方や外国にルーツを持つ方はいますか。 (○は1つだけ)					
[n=949]					
1	いる	6.4%	2	いない	85.5
				(無回答)	8.1

調査回答者で、親類に外国籍の方や外国にルーツを持つ方が「いる」(6.4%)は1割に満たず、「いない」(85.5%)が8割台半ばとなっている。(図表6)

<図表7>親類に外国籍の方や外国にルーツを持つ方の有無



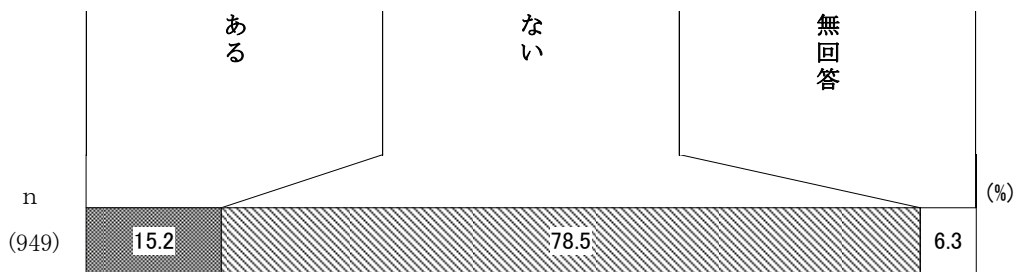
(6) 海外での生活経験

◇海外での生活経験が「ある」は1割台半ば

問6	あなたはこれまで海外での生活経験（3ヵ月以上）がありますか。（○は1つだけ）						
	[n=949]						
1	ある	15.2%	2	ない	78.5%	(無回答)	6.3%

調査回答者で、海外での生活経験が「ある」（15.2%）は1割台半ばで、「ない」（78.5%）が8割近い。（図表7）

<図表8> 海外での生活経験

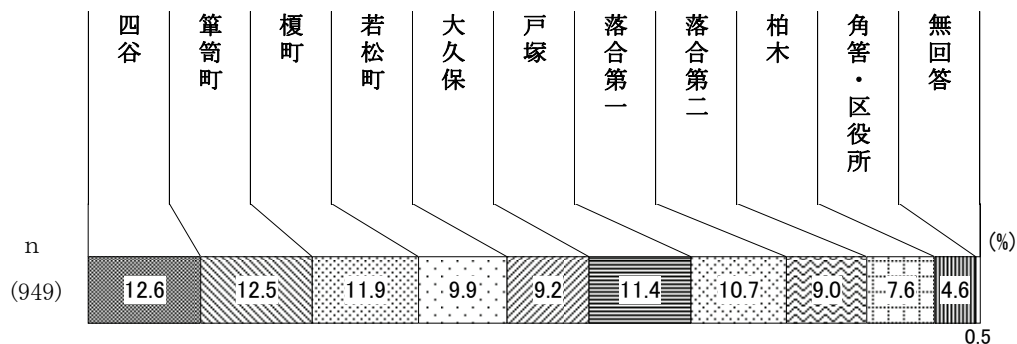


(7) 居住地域

◇居住地域は「柏木」、「角筈・区役所」を除いて1割前後でおおむね並ぶ

調査回答者の居住地域は、「四谷」（12.6%）、「笹笥町」（12.5%）、「榎町」（11.9%）、「戸塚」（11.4%）が1割強で、以下、「落合第一」（10.7%）、「若松町」（9.9%）、「落合第二」（9.0%）などと続く。（図表8）

<図表9> 居住地域



II 調査結果

1 暮らしの実感

(1) 定住意向

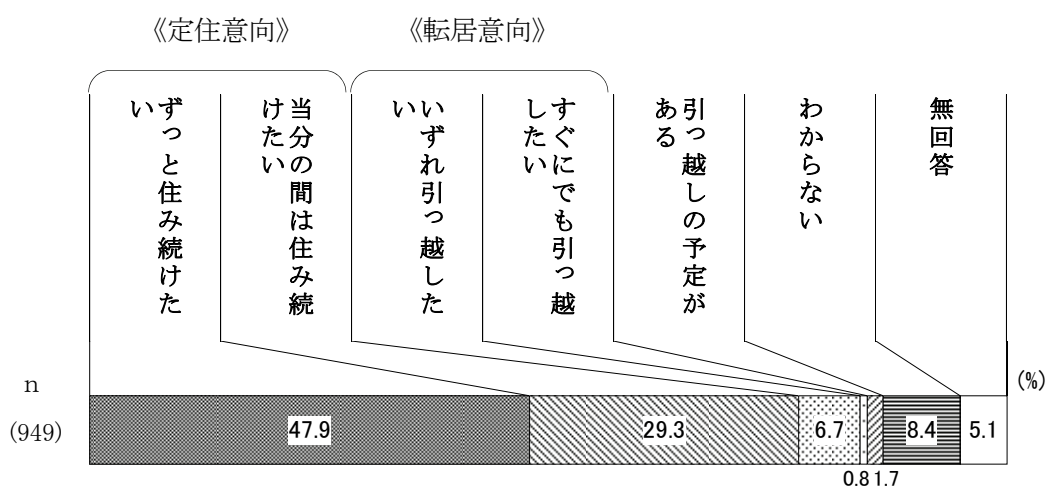
◇《定住意向》は7割台半ばを超える

問7 この先どれぐらいの期間、新宿区に住み続けたいですか。(○は1つだけ)					
[n=949]					
1	ずっと住み続けたい	47.9%	4	すぐにでも引っ越したい	0.8
2	当分の間は住み続けたい	29.3	5	引っ越しの予定がある	1.7
3	いずれ引っ越したい	6.7	6	わからない	8.4
				(無回答)	5.1

定住意向は、「ずっと住み続けたい」(47.9%)が4割台半ばを超え最も高く、次いで「当分の間は住み続けたい」(29.3%)が3割弱である。これらを合わせた《定住意向》(77.2%)は7割台半ばを超える。一方、「いずれ引っ越したい」(6.7%)と「すぐにでも引っ越したい」(0.8%)を合わせた《転居意向》(7.5%)は1割に満たない。(図表1-1)

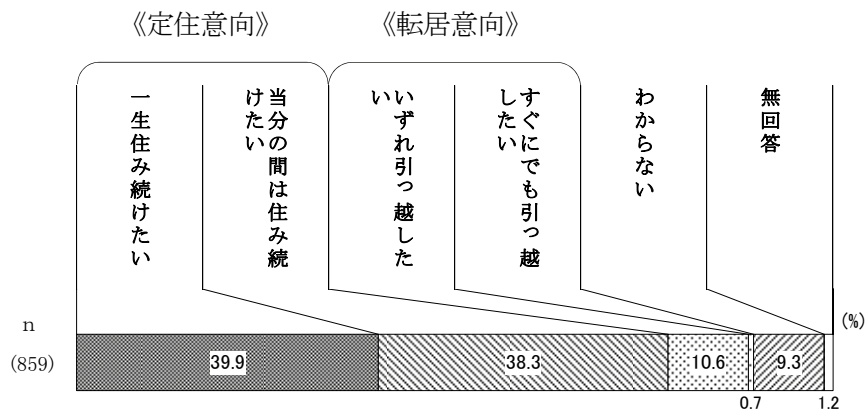
平成19年度にも同様の設問を聞いているが、項目の内容を大幅に変更しているため、参考として掲載する。(図表1-2)

<図表1-1>定住意向



<図表1-2> (参考) 平成19年度

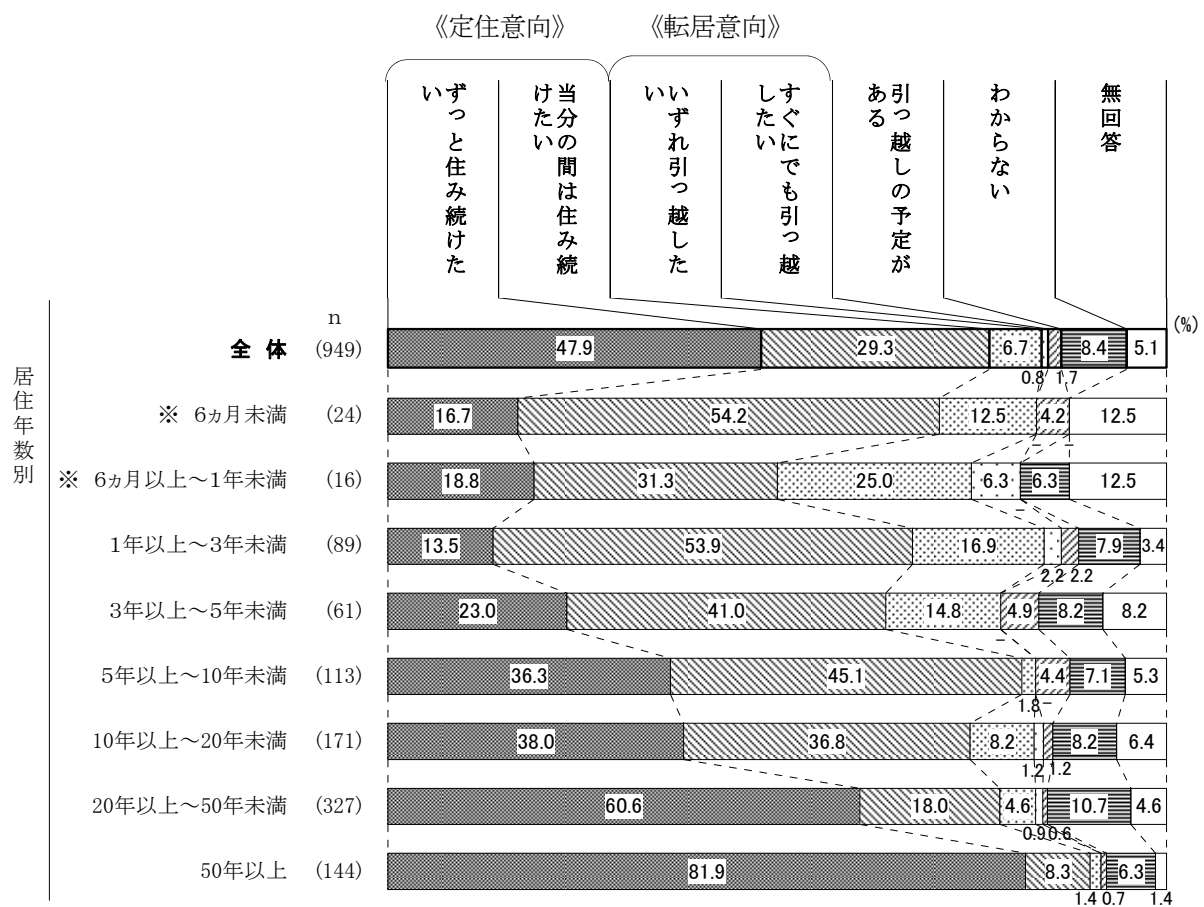
問 あなたは、この先どれくらい新宿区に住み続けたいですか。(〇は1つだけ)



【居住年数別】

「ずっと住み続けたい」は、居住年数が長いほど増加しており、“50年以上”で8割強となる。《定住意向》としてみると、“50年以上”で約9割と最も高く、次いで“5年以上～10年未満”で8割強となっている。(図表1-3)

<図表1-3> 定住意向《居住年数別》

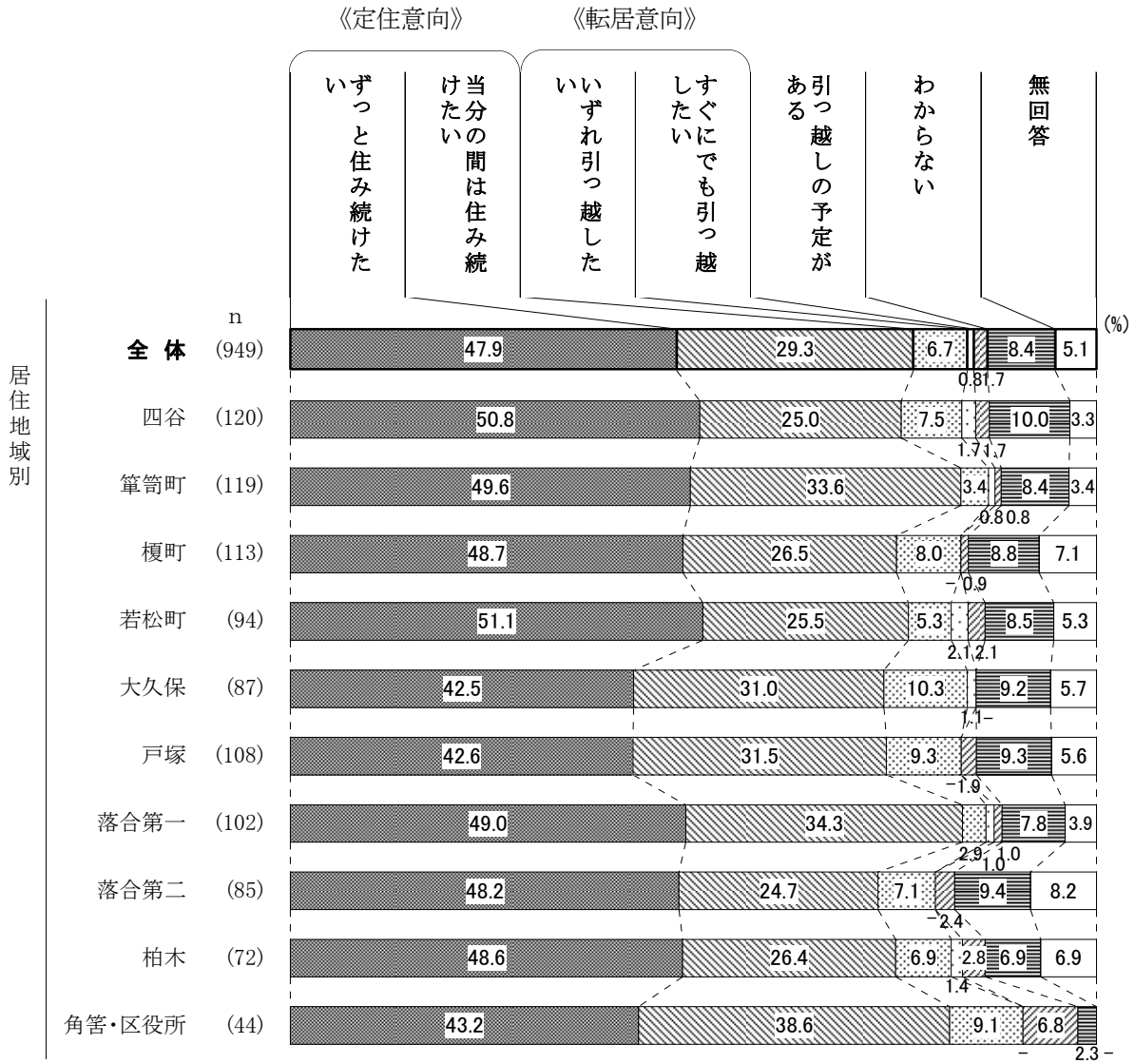


(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

【居住地域別】

《定住意向》は、“落合第一”と“箆笥町”で8割台半ば近くと高くなっており、次いで“角筈・区役所”で8割強である。(図表1-4)

<図表1-4>定住意向《居住地域別》



(2) 外国人増加の実感

◇身近に外国人が《多いと感じる》は6割強

◇外国人が多いと感じる時は、「通りで外国人をよく見る」が8割台半ばを超え最も高い

問8 現在の新宿区の人口は約33万人です。そのうち約3万7千人が外国人です。あなたの身近には、外国人が多いと感じますか。(〇は1つだけ)

[n=949]

1 多いと感じる	37.2%	3 それほど多いとは感じない	25.4
2 ある程度は多いと感じる	24.6	4 少ないと感じる	5.1
		5 わからない	3.0
		(無回答)	4.8

(問8で、「1」か「2」とお答えの方に)

問8-1 それはどんな時ですか。(〇はいくつでも)

[n=586]

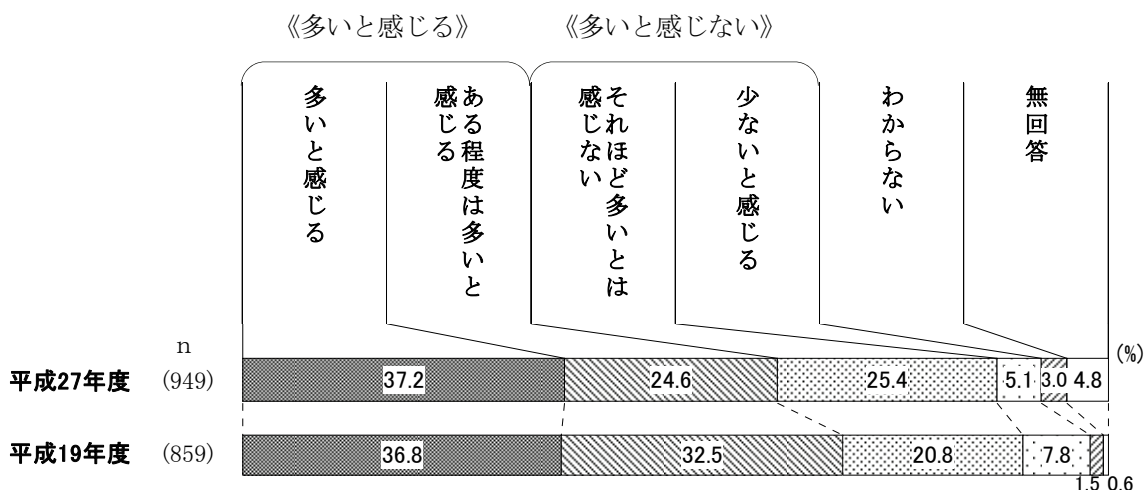
1 通りで外国人をよく見る	86.7%	6 外国人が経営する店や会社が増えた	29.2
2 近所に外国人が住んでいる	55.6	7 外国語の看板が多い	28.0
3 お店で働く外国人が多い	64.5	8 外国語の印刷物が多い	15.5
4 留学生が多い	24.4	9 その他	5.1
5 外国人の友人・知人が増えた	8.7	(無回答)	0.2

①外国人増加の実感

身近に外国人住民が「多いと感じる」(37.2%)は3割台半ばを超え最も高く、「ある程度は多いと感じる」(24.6%)は2割台半ば近くとなっている。これらを合わせた《多いと感じる》(61.8%)は6割強となる。一方、「それほど多いとは感じない」(25.4%)と「少ないと感じる」(5.1%)を合わせた《多いと感じない》(30.5%)は約3割となっている。

平成19年度と比較すると、《多いと感じる》が7.5ポイント減少している。(図表1-5)

<図表1-5>外国人増加の実感／(参考)平成19年度との比較

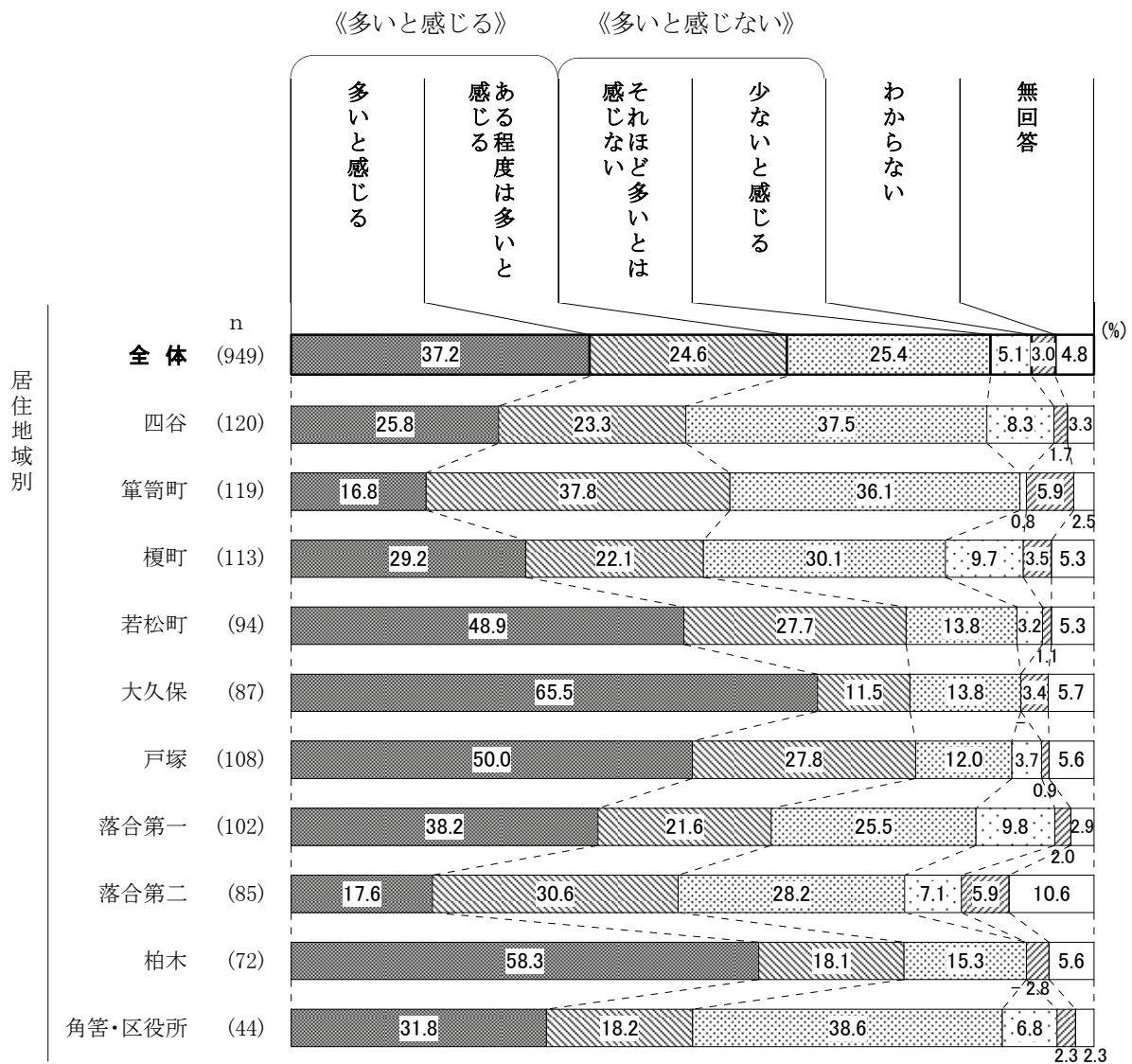


(注) ※ 「少ないと感じる」は、平成19年度では「多いとは感じない」であった。

【居住地域別】

「多いと感じる」は、“大久保”で6割台半ばと最も高く、次いで“柏木”で6割近い。「ある程度は多いと感じる」を含めた《多いと感じる》としてみると、“戸塚”、“大久保”、“若松町”、“柏木”で7割台半ばを超えおおむね並ぶ。一方、《多いと感じない》は、“四谷”と“角筭・区役所”で4割台半ばとなっている。(図表1-6)

<図表1-6>外国人増加の実感《居住地域別》

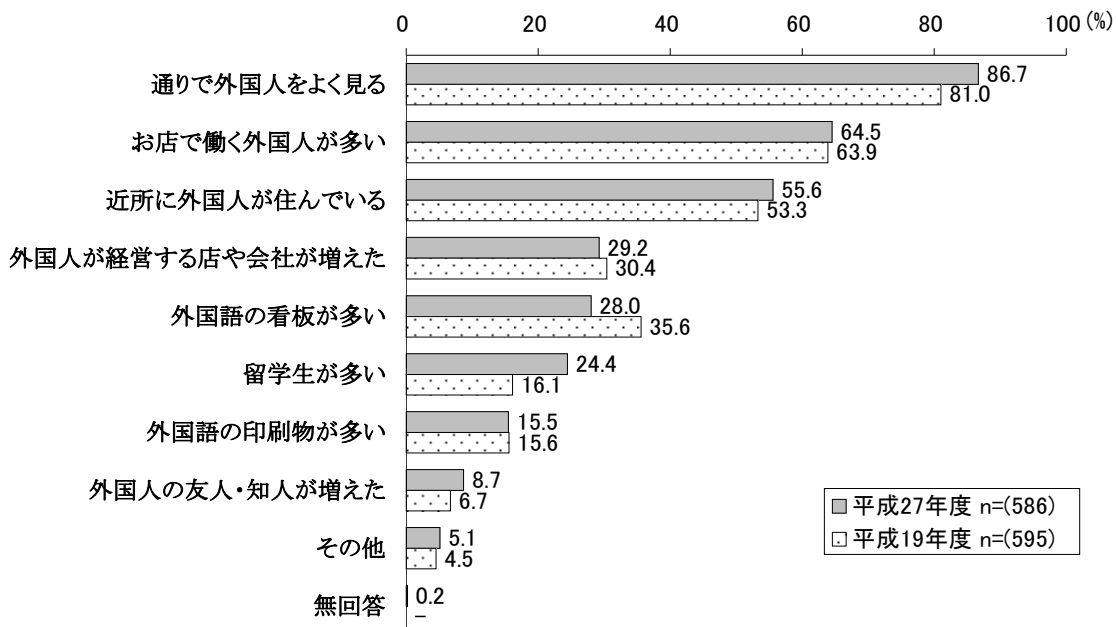


②外国人が多いと感じる時

問8で、外国人住民が《多いと感じる》と回答した人に、どんな時かを聞いた。その結果、「通りで外国人をよく見る」(86.7%)が8割台半ばを超え最も高くなっている。次いで「お店で働く外国人が多い」(64.5%)は6割台半ば近く、「近所に外国人が住んでいる」(55.6%)は5割台半ばとなっている。

平成19年度と比較すると、上位3項目の順位は変わらないが、「留学生が多い」は8.3ポイント、「通りで外国人をよく見る」が5.7ポイント増加している。逆に、「外国語の看板が多い」が7.6ポイント減少している。(図表1-7)

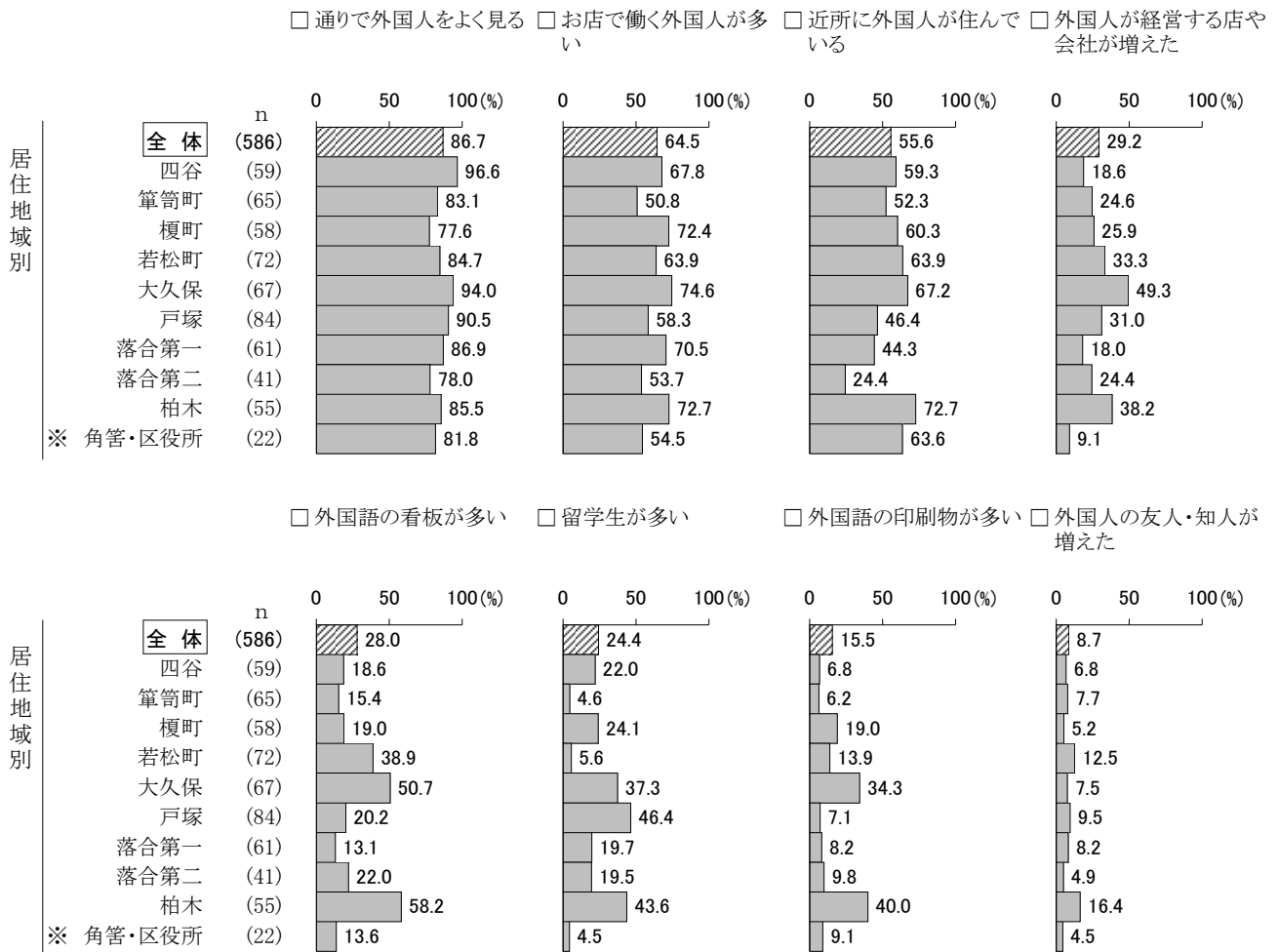
＜図表1-7＞外国人が多いと感じる時（複数回答）／平成19年度との比較



【居住地域別】

「通りで外国人をよく見る」は、いずれの居住地域でも高くなっており、「四谷」で9割台半ばを超え最も高く、「大久保」で9割台半ば近い。「お店で働く外国人が多い」は、「大久保」で7割台半ば近く、「柏木」と「榎町」で7割強、「落合第一」で約7割と高くなっている。また、「近所に外国人が住んでいる」、「外国人が経営する店や会社が増えた」、「外国語の看板が多い」、「外国語の印刷物が多い」は、「大久保」と「柏木」で高い傾向にある。さらに、この2つの居住地域は「留学生が多い」でも、「戸塚」に続き高くなっている。(図表1-8)

<図表1-8>外国人が多いと感じる時《居住地域別》



(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

(3) 近所に外国人が住むことについての考え

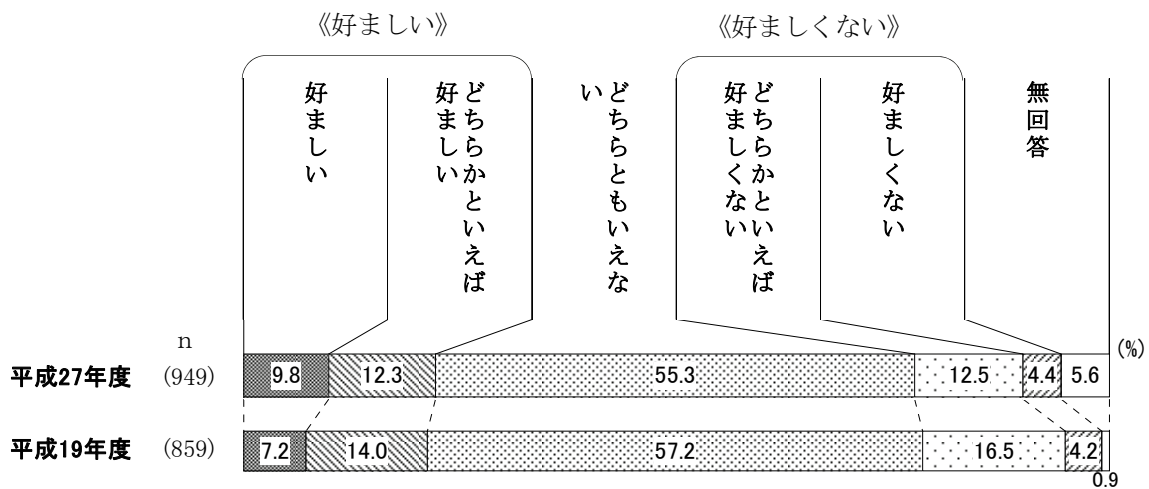
◇《好ましい》が《好ましくない》をやや上回る

問9 あなたは、近所に外国人が住むことについてどう思いますか。(○は1つだけ)					
[n=949]					
1	好ましい	9.8%	4	どちらかといえば好ましくない	12.5
2	どちらかといえば好ましい	12.3	5	好ましくない	4.4
3	どちらともいえない	55.3		(無回答)	5.6

近所に外国人が住むことが「好ましい」(9.8%)と「どちらかといえば好ましい」(12.3%)を合わせた、《好ましい》(22.1%)は2割強となっている。最も高いのは、「どちらともいえない」(55.3%)で5割台半ばである。「どちらかといえば好ましくない」(12.5%)と「好ましくない」(4.4%)を合わせた《好ましくない》(16.9%)は《好ましい》をやや下回っている。

平成19年度と比較しても、特に大きな違いはみられない。(図表1-9)

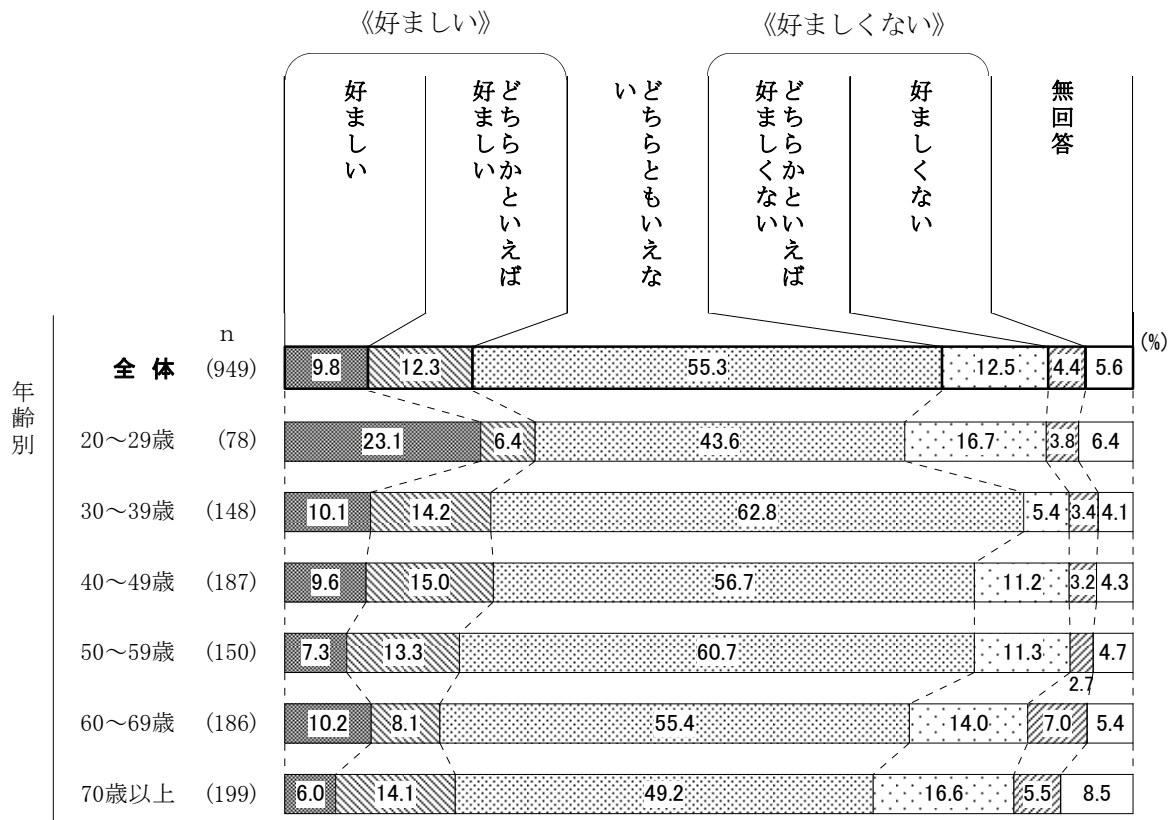
<図表1-9>近所に外国人が住むことについての考え/平成19年度との比較



【年齢別】

《好ましい》は、“20～29歳”で3割弱と高く、おおむね年齢が上がるほど低くなる。一方、《好ましくない》は、“60～69歳”と“70歳以上”で2割強だが、ここでも“20～29歳”は約2割みられる。
 (図表1-10)

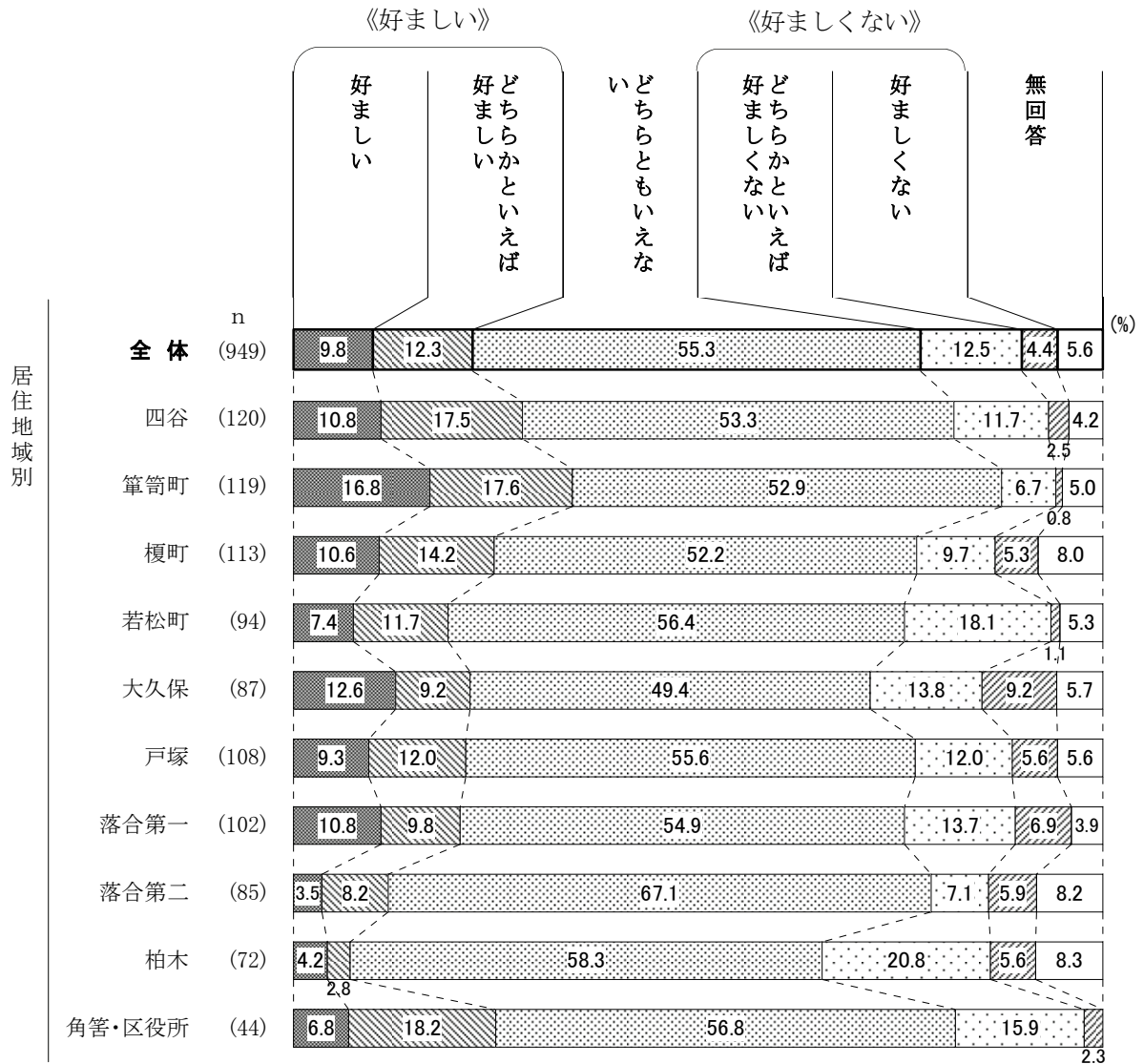
<図表1-10> 近所に外国人が住むことについての考え《年齢別》



【居住地域別】

《好ましい》は、“箆笥町”で3割台半ば近くと最も高くなっており、次いで“四谷”で3割近く、“角筈・区役所”で2割台半ばとなっている。一方、《好ましくない》は、“柏木”で2割台半ばを超え最も高く、次いで“大久保”で2割台半ば近い。(図表1-11)

<図表1-11> 近所に外国人が住むことについての考え《居住地域別》



(4) 近所に外国人が住むことについて感じる事

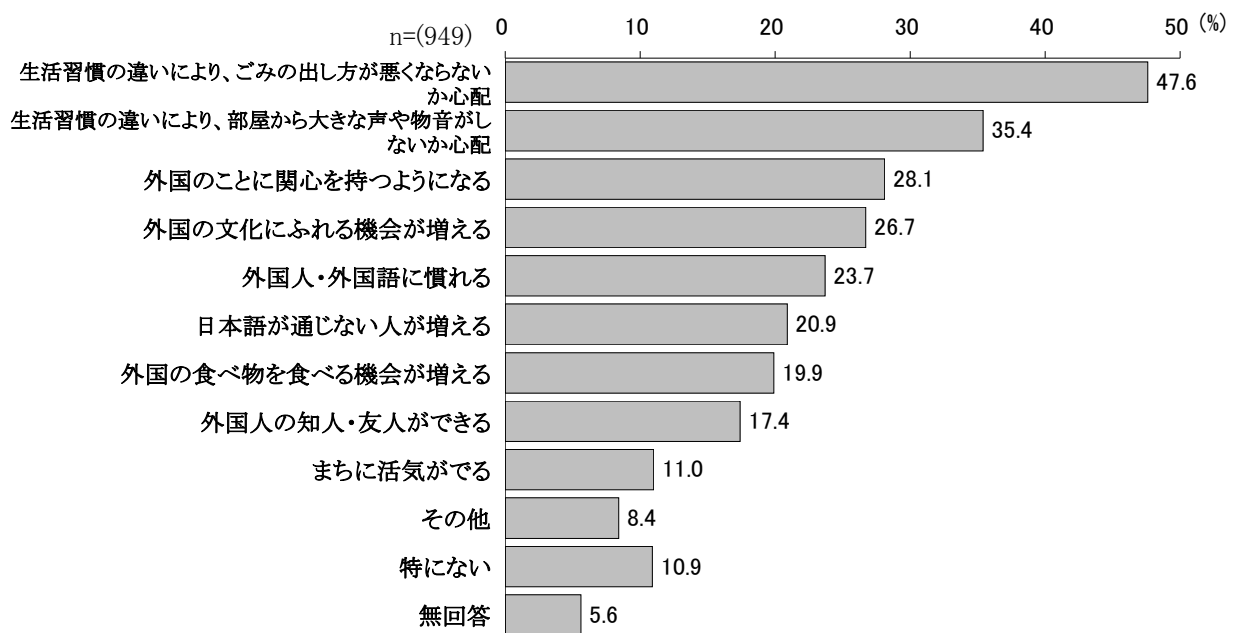
◇「生活習慣の違いにより、ごみの出し方が悪くならないか心配」が4割台半ばを超え最も高い

問10 近所に様々な国籍の外国人が住むことについて、どのようなことを感じますか。 (〇はいくつでも)	
[n=949]	
1 外国の食べ物を食べる機会が増える	19.9%
2 外国人・外国語に慣れる	23.7
3 外国の文化にふれる機会が増える	26.7
4 外国人の知人・友人ができる	17.4
5 外国のことに興味を持つようになる	28.1
6 まちに活気がでる	11.0
7 日本語が通じない人が増える	20.9
8 生活習慣の違いにより、ごみの出し方が悪くならないか心配	47.6
9 生活習慣の違いにより、部屋から大きな声や物音がしないか心配	35.4
10 その他	8.4
11 特にない	10.9
(無回答)	5.6

近所に外国人が住むことについて感じる事としては、「生活習慣の違いにより、ごみの出し方が悪くならないか心配」(47.6%)が4割台半ばを超え最も高くなっている。次いで「生活習慣の違いにより、部屋から大きな声や物音がしないか心配」(35.4%)が3割台半ば、「外国のことに興味を持つようになる」(28.1%)が3割近い。(図表1-12)

平成19年度にも同様の設問を聞いているが、平成19年度は良いと思われることと、心配に思うことの別個の設問で聞いていたことから、参考として掲載する。(図表1-13)

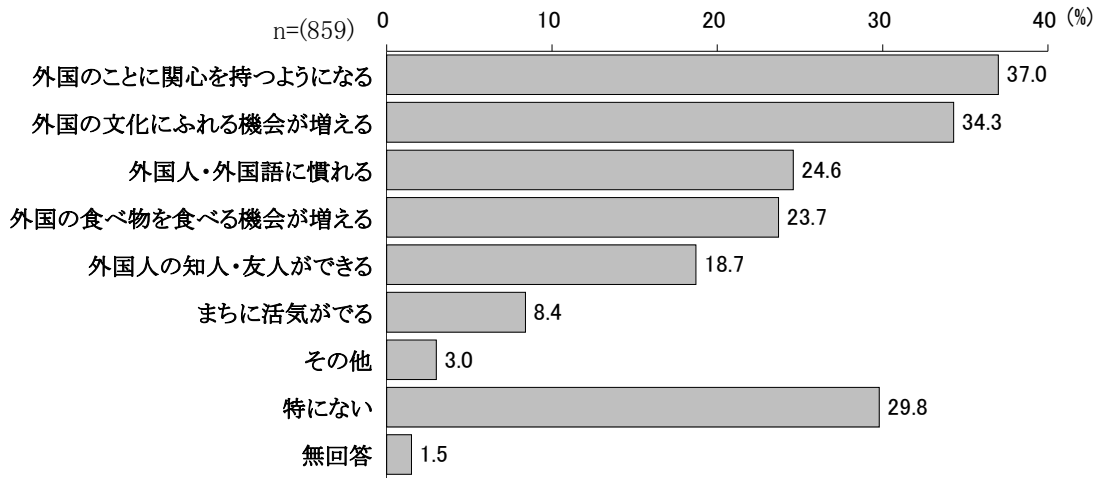
<図表1-12> 近所に外国人が住むことについて感じる事 (複数回答)



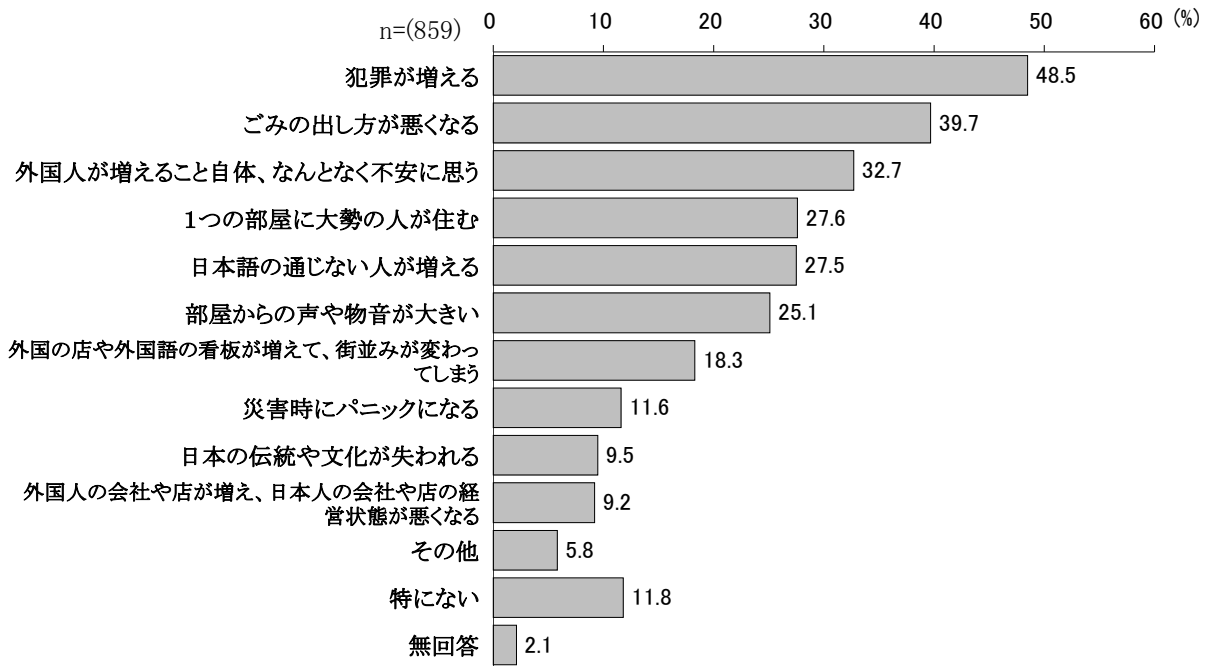
<図表 1-13> (参考) 平成19年度

問 あなたは、近所に外国人が増えると、どのような良いことがあると思いますか。

(○はいくつでも)



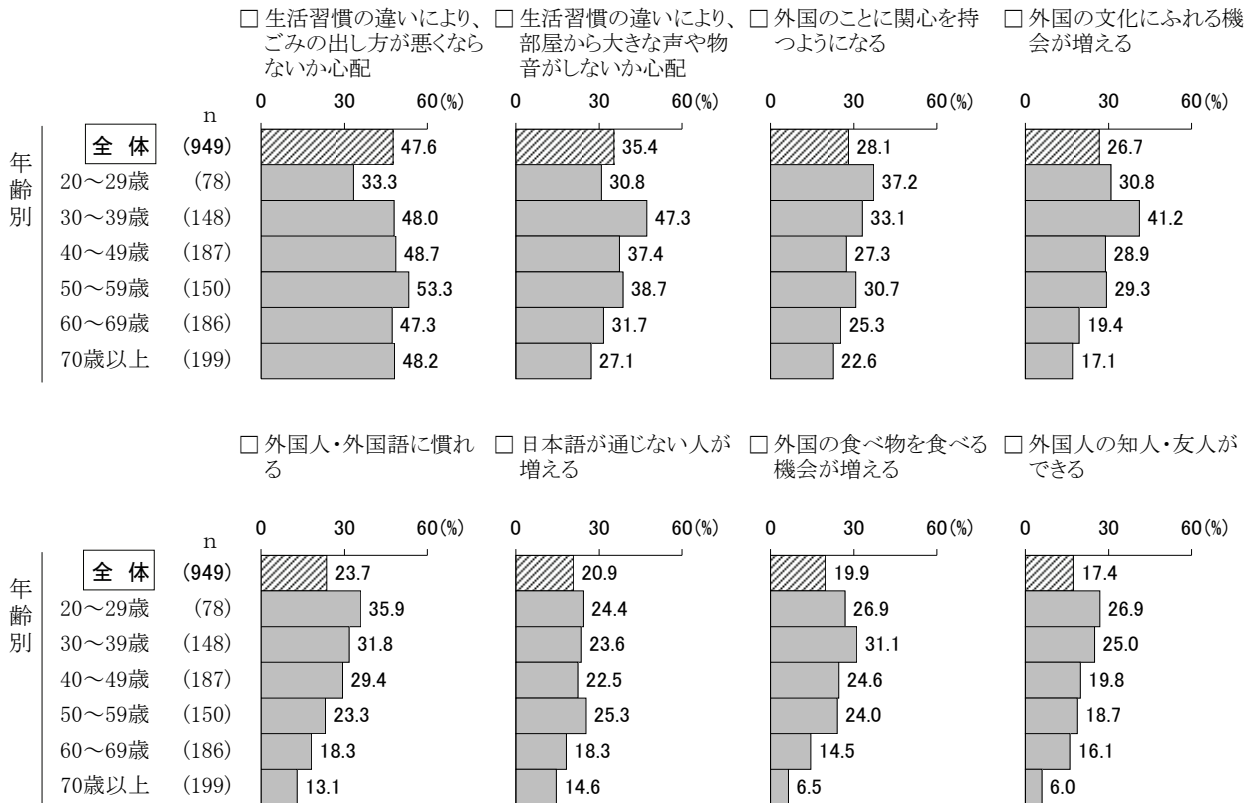
問 あなたは近所に外国人が増えると、どのようなことが心配ですか。(○はいくつでも)



【年齢別】

上位8項目について年齢別でみると、「生活習慣の違いにより、ごみの出し方が悪くならないか心配」は、“50～59歳”で5割台半ば近く最も高い。「生活習慣の違いにより、部屋から大きな声や物音がしないか心配」は、“30～39歳”で4割台半ばを超え最も高く、それ以降おおむね年齢が上がるほど低くなる。一方、心配ごと以外の項目では、“20～29歳”と“30～39歳”で高く、年齢が上がるほど低くなる傾向がみられる。(図表1-14)

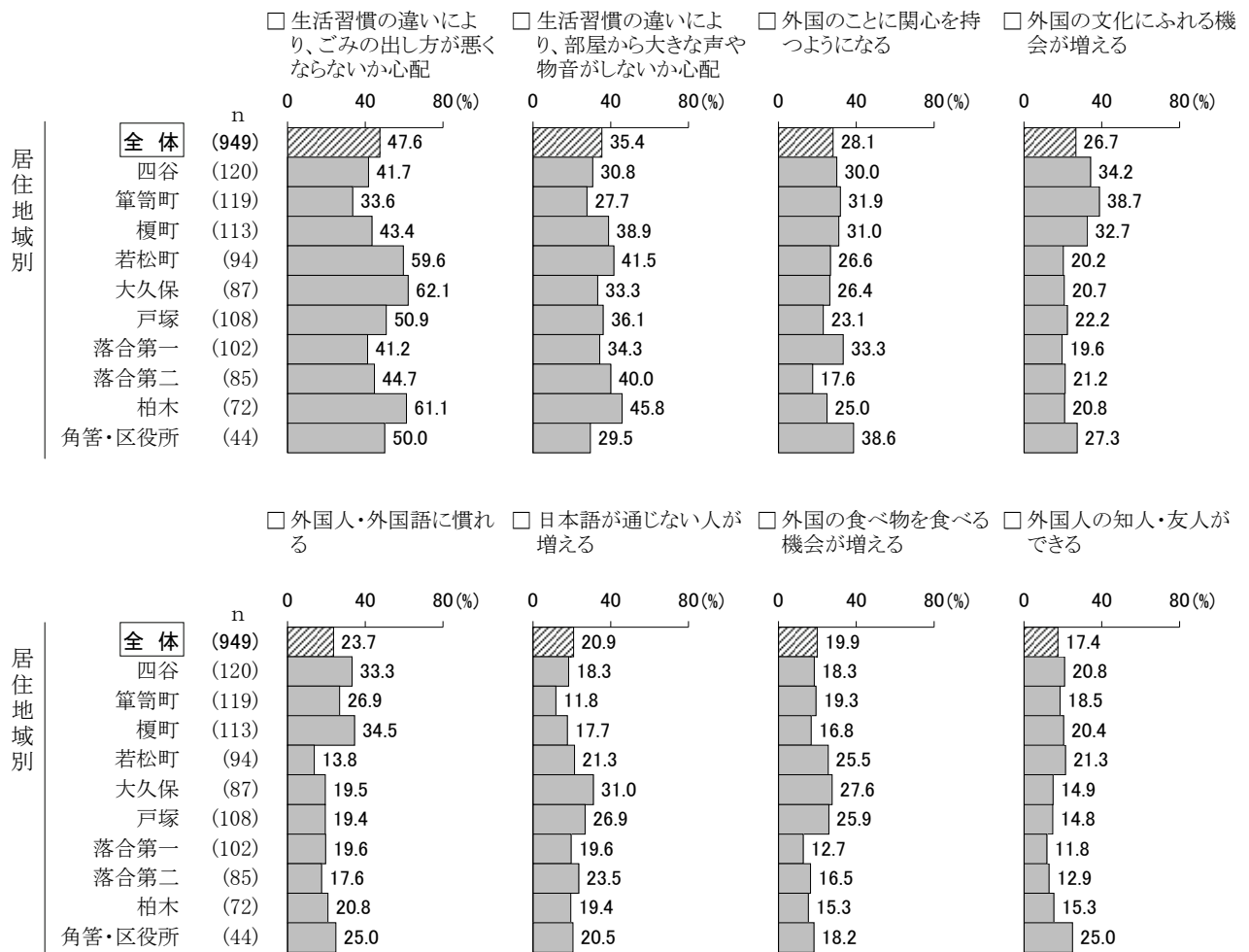
<図表1-14> 近所に外国人が住むことについて感じる事《年齢別》(上位8項目)



【居住地域別】

上位8項目について居住地域別でみると、「生活習慣の違いにより、ごみの出し方が悪くならないか心配」は、“大久保”と“柏木”で6割強と高く、次いで“若松町”で6割弱となっている。「生活習慣の違いにより、部屋から大きな声や物音がしないか心配」は、“柏木”で4割台半ばと最も高く、次いで“若松町”で4割強である。このほか、「外国のことに関心を持つようになる」は“角筈・区役所”で、「外国の文化にふれる機会が増える」は“簗笥町”で4割近く、「外国人・外国語に慣れる」は“四谷”と“榎町”で3割台半ば近くになっている。(図表1-15)

<図表1-15> 近所に外国人が住むことについて感じる事《居住地域別》(上位8項目)



(5) 外国人が生活上困っていたり不満があると思われること

◇「日本語が不自由」が4割で最も高く、「災害時・緊急時の対応」が3割強

問11 あなたは、あなたのまわりにいる外国人にとって、生活で困っていること、不満なことは何だと思いますか。(○はいくつでも)

[n=949]

1	日本語が不自由	40.0%	10	近所づきあい	26.4
2	情報が少ない	21.1	11	友人が少ない	6.5
3	住居	10.4	12	近所の人との間のトラブル	18.5
4	病院・医療	19.4	13	偏見・差別	23.2
5	年金	6.3	14	日本人が閉鎖的だと感じる	12.8
6	出産・育児	8.1	15	生活費など金銭的な問題	10.3
7	子どもの教育	15.8	16	その他	3.4
8	仕事	15.8	17	特にない	15.7
9	災害時・緊急時の対応	31.6		(無回答)	9.1

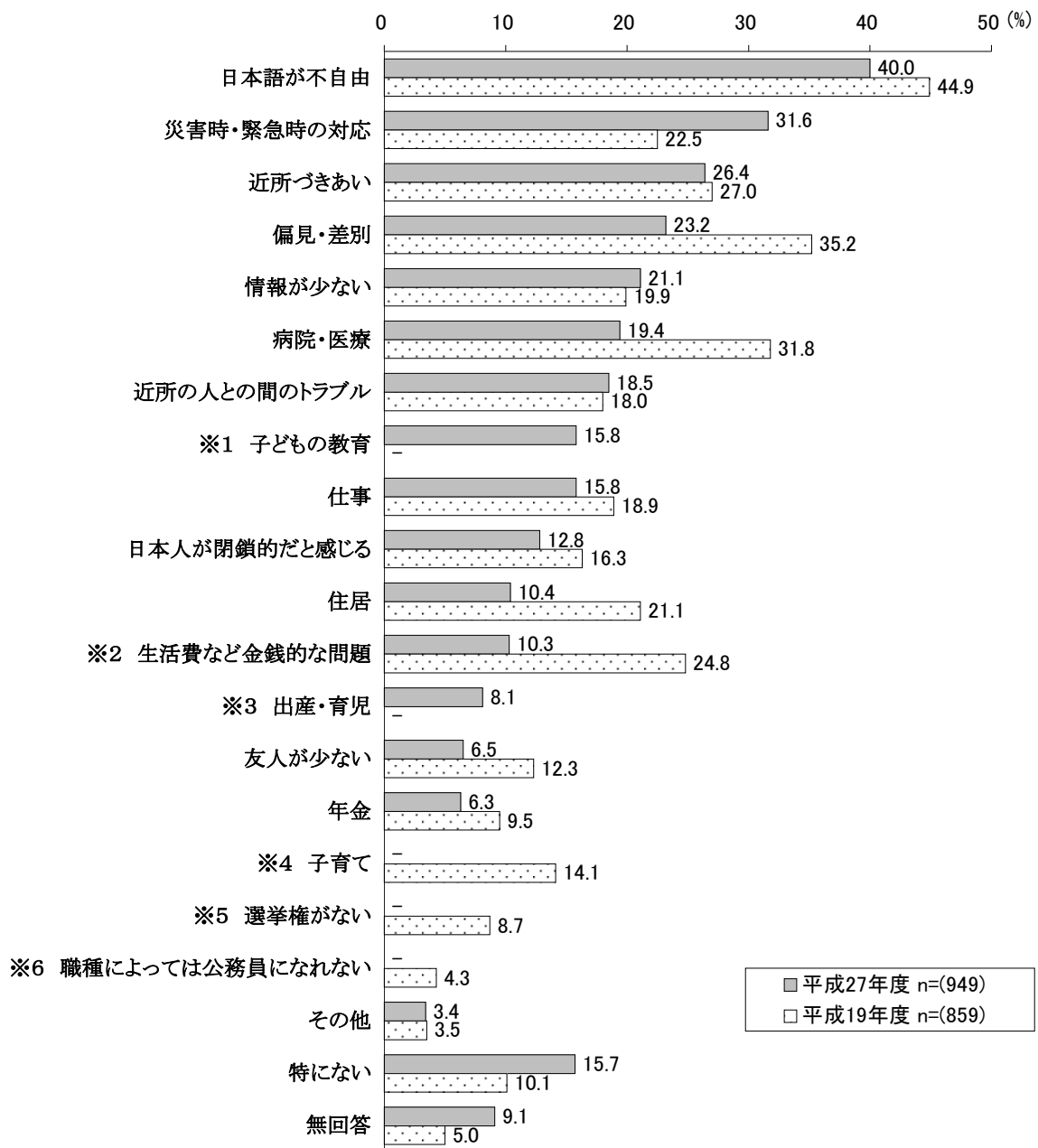
この設問は、日本人住民から見て、外国人住民が生活上困っていたり不満があると思われることを聞いている。つまり、どちらかといえばイメージに近いものと考えられる。結果としては、「日本語が不自由」(40.0%)が4割で最も高くなっている。次いで「災害時・緊急時の対応」(31.6%)は3割強となっている。以下、「近所づきあい」(26.4%)は2割台半ばを超え、「偏見・差別」(23.2%)は2割台半ば近くなどと続く。

なお、「特にない」(15.7%)は1割台半ばである。

平成19年度との比較については、項目数が異なるため参考として順位を比べるにとどめるが、「日本語が不自由」が第1位であることは平成19年度と変わらない。順位の変化が大きなものとしては、平成19年度で第6位だった「災害時・緊急時の対応」が今回は第2位に順位を上げ、逆に、平成19年度で第7位だった「住居」が今回は第12位に順位を下げていることなどがある。(図表1-16)

<図表 1-16> 外国人が生活上困っていたり不満があると思われること（複数回答）

／（参考）平成19年度との比較



(注) ※1 今回調査で新設した項目である。

(注) ※2 「生活費など金銭的な問題」は平成19年度調査では「物価が高い」であった。

(注) ※3 今回調査で新設した項目である。

(注) ※4、5、6は今回割愛

2 日常生活

(1) 近所の外国人との付き合いの程度

◇現在は「全くつき合いがない」が4割台半ば近い

◇今後は「あいさつをする程度」が2割台半ばを超える

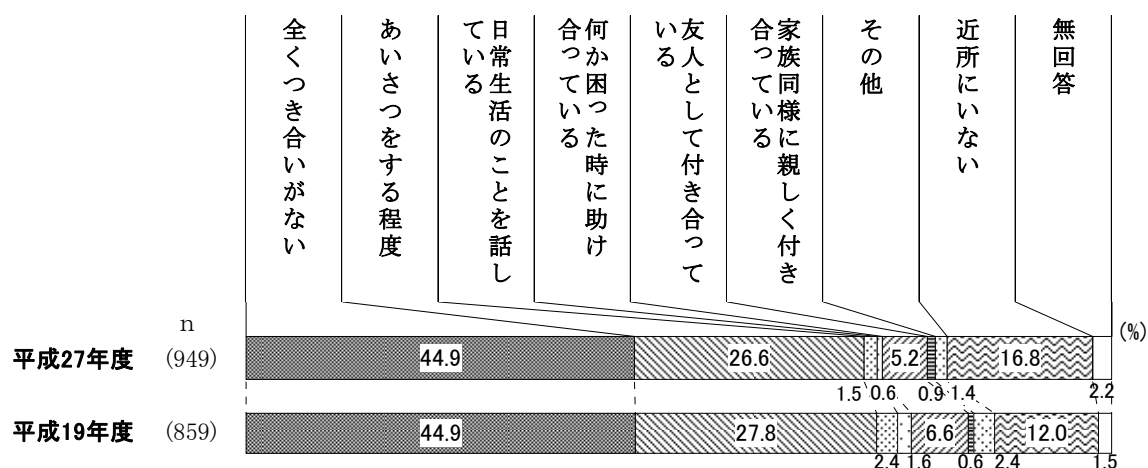
問12 あなたは現在、近所の外国人とどんな付き合いがありますか。また、今後どのように接していきたいですか。(〇はそれぞれ1つ)			
現在			
〔n=949〕			
1 全くつき合いがない	44.9%	5 友人として付き合っている	5.2
2 あいさつをする程度	26.6	6 家族同様に親しく付き合っている	0.9
3 日常生活のことを話している	1.5	7 その他	1.4
4 何か困った時に助け合っている	0.6	8 近所にいない (無回答)	16.8 2.2
今後			
〔n=949〕			
1 全くつき合わない	7.5%	5 友人として付き合う	9.1
2 あいさつをする程度	27.5	6 家族同様に親しくつき合う	1.7
3 日常生活のことを話す	4.1	7 その他	2.2
4 何か困った時に助け合う	17.5	8 わからない (無回答)	25.5 5.0

①近所の外国人との付き合いの程度（現在）

近所の外国人との付き合いの程度としては、「全くつき合いがない」(44.9%)が4割台半ば近く最も高くなっている。一方、「あいさつをする程度」(26.6%)は2割台半ばを超える。

平成19年度と比較すると、「近所にいない」が4.8ポイント増加している。(図表2-1)

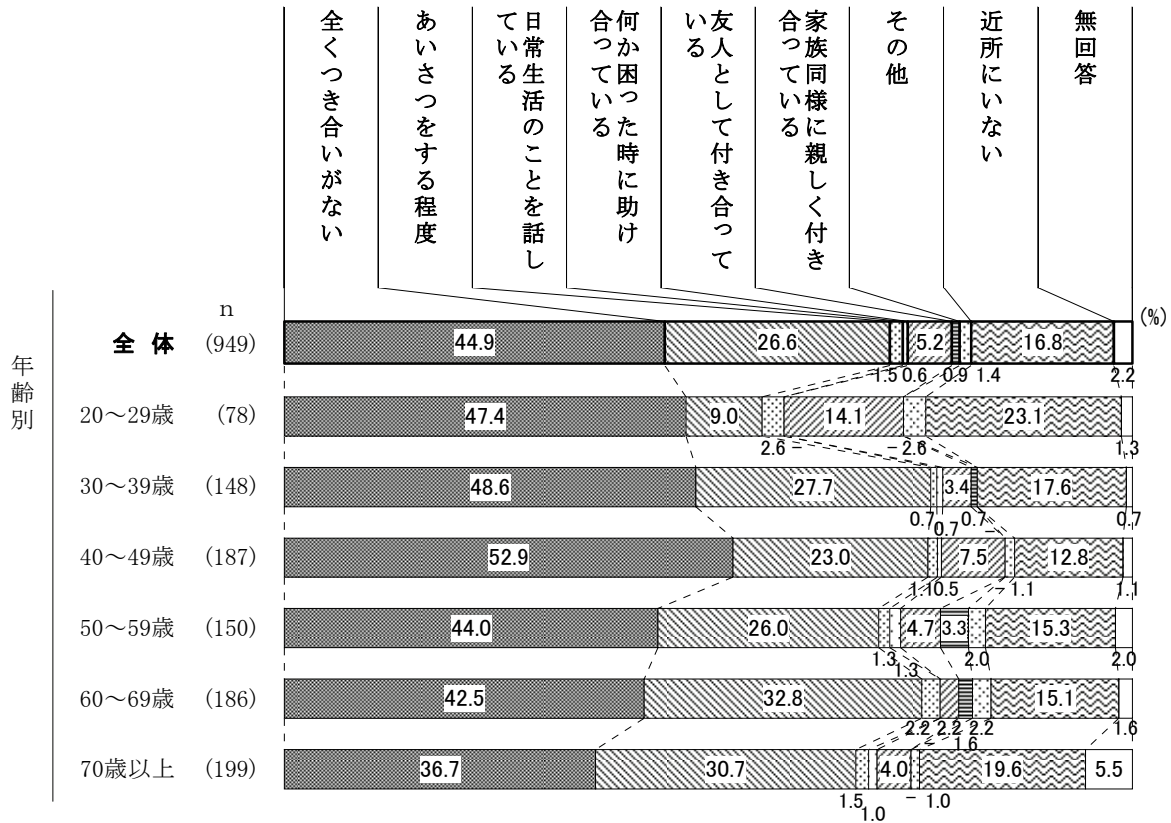
<図表2-1>近所の外国人との付き合いの程度（現在）／平成19年度との比較



【年齢別】

「全くつき合いがない」は、“40～49歳”で5割強と最も高くなっている。「あいさつをする程度」は、“60～69歳”で3割強、“70歳以上”で約3割と高い。また、「近所にいない」は、“20～29歳”で2割台半ばに近く最も高くなっている。(図表2-2)

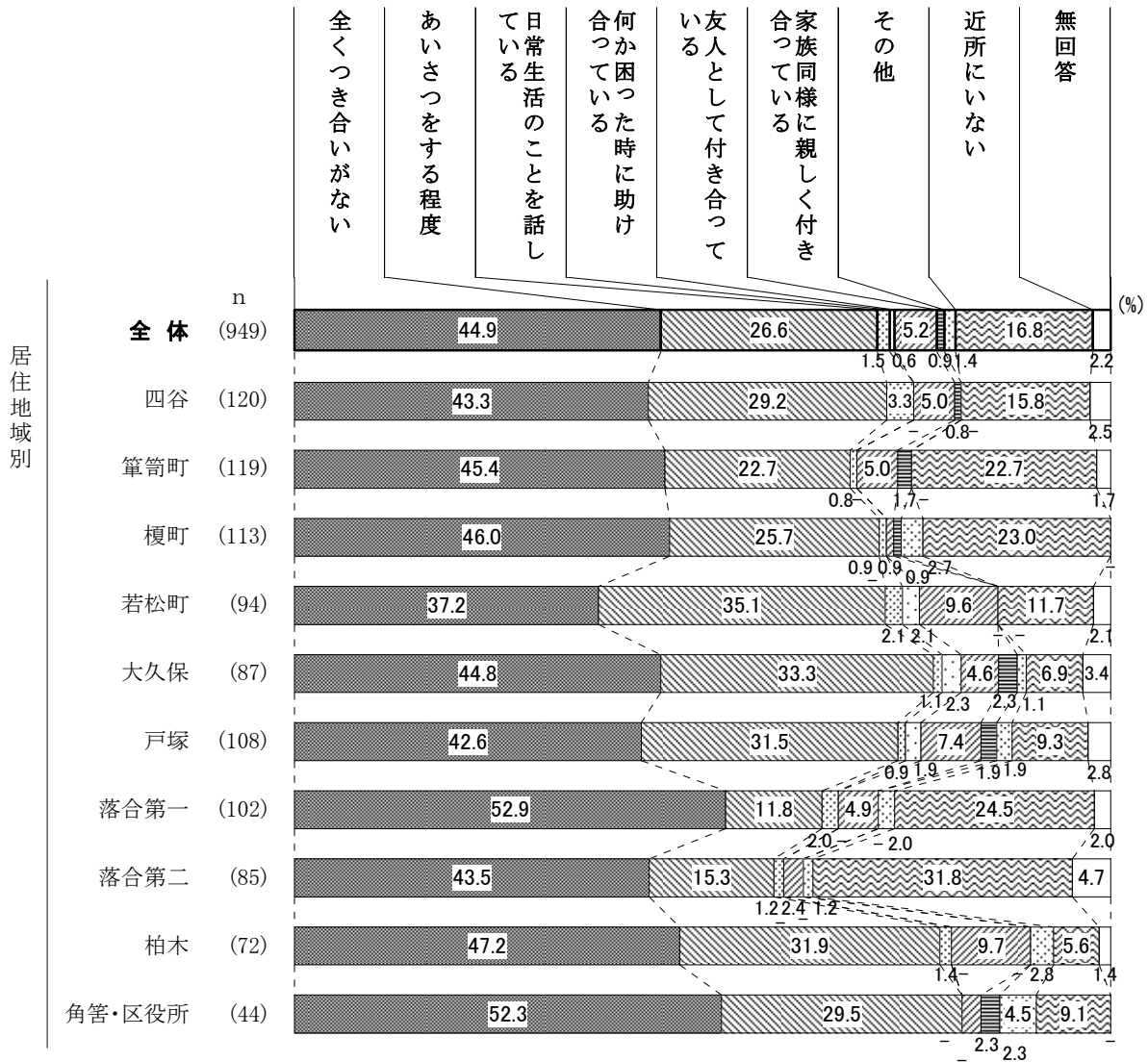
<図表2-2> 近所の外国人とのつき合いの程度（現在）《年齢別》



【居住地域別】

「全くつき合いがない」は、“落合第一”と“角筈・区役所”で5割強と高くなっている。「あいさつをする程度」は、“若松町”で3割台半ばと最も高く、次いで“大久保”で3割台半ば近い。また、「近所にいない」は、“落合第二”で3割強と最も高くなっている。(図表2-3)

<図表2-3> 近所の外国人とのつき合いの程度（現在）《居住地域別》

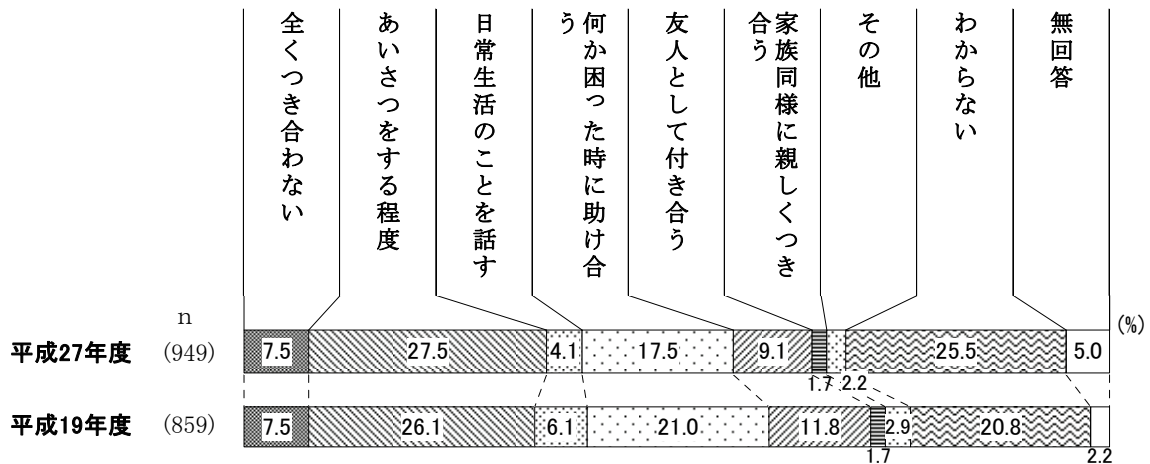


②近所の外国人との付き合いの程度（今後）

現在の付き合いの程度と対比する形で、今後の付き合いの程度を聞いたところ、「全くつき合わない」（7.5%）は1割を下回り、「あいさつをする程度」（27.5%）が2割台半ばを超え高くなっている。

平成19年度と比較すると、「わからない」が4.7ポイント増加している。（図表2-4）

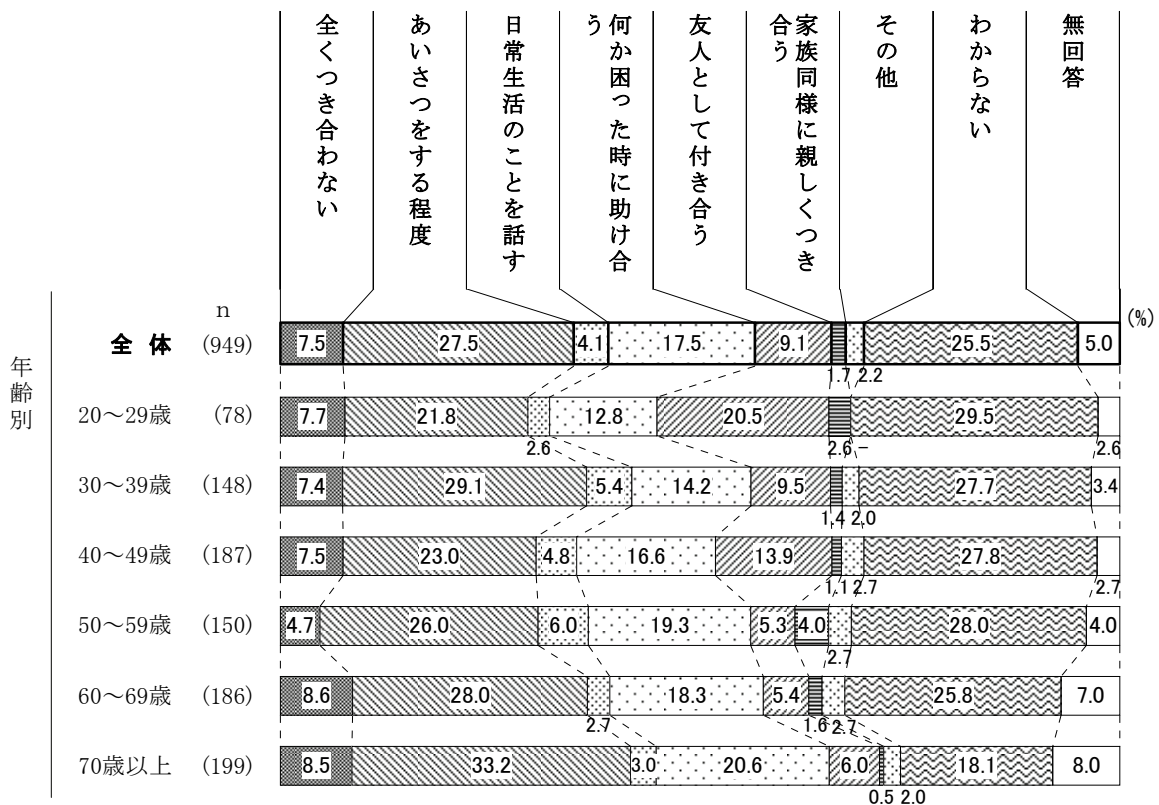
<図表2-4>近所の外国人との付き合いの程度（今後）／平成19年度との比較



【年齢別】

「あいさつをする程度」は、「70歳以上」で3割台半ば近くと最も高くなっており、次いで「30～39歳」で3割弱となっている。「何か困った時に助け合う」は、おおむね年齢が上がるほど高くなり、「70歳以上」で約2割である。また、「友人としてつき合う」は、「20～29歳」で約2割と最も高い。（図表2-5）

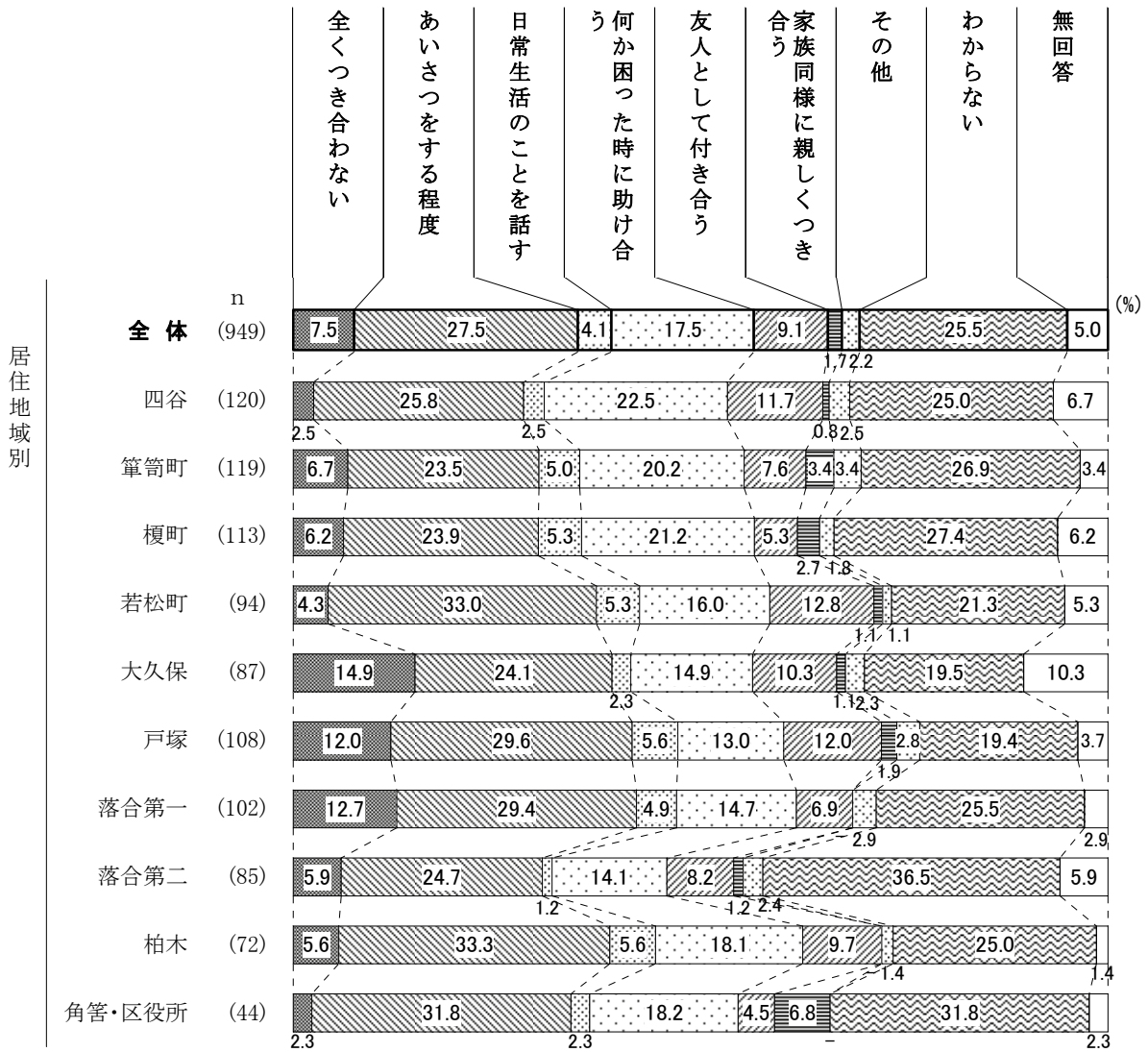
<図表2-5>近所の外国人との付き合いの程度（今後）《年齢別》



【居住地域別】

“四谷”、“若松町”、“大久保”、“戸塚”、“落合第一”、“柏木”では、「あいさつをする程度」が最も高くなっているが、“箕筒町”、“榎町”、“落合第二”は「わからない」の方が高くなっている。また、“角筈・区役所”は「あいさつをする程度」と「わからない」が同率で並んでいる。(図表2-6)

<図表2-6> 近所の外国人との付き合いの程度(今後)《居住地域別》



(2) 外国人と生活していく上で大切なこと

◇「生活習慣の相互理解」が5割台半ば近くで最も高い

問13 あなた自身が、同じ地域で外国人と生活していく上で大切なことは何だと思えますか。
(○はいくつでも)

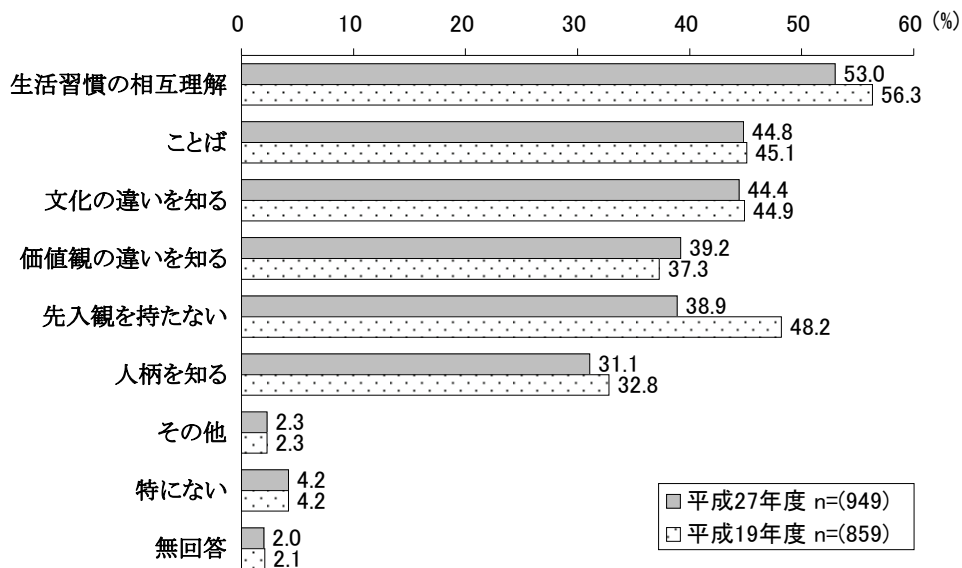
[n=949]

1	ことば	44.8%	5	人柄を知る	31.1
2	生活習慣の相互理解	53.0	6	先入観を持たない	38.9
3	価値観の違いを知る	39.2	7	その他	2.3
4	文化の違いを知る	44.4	8	特にない	4.2
				(無回答)	2.0

外国人と生活していく上で大切なこととしては、「生活習慣の相互理解」(53.0%)が5割台半ば近くで最も高く、次いで「ことば」(44.8%)と「文化の違いを知る」(44.4%)が4割台半ば近くとなっている。このほか、「価値観の違いを知る」(39.2%)と「先入観を持たない」(38.9%)が3割台後半である。

平成19年度と比較すると、「先入観を持たない」が9.3ポイント減少している。(図表2-7)

<図表2-7>外国人と生活していく上で大切なこと(複数回答) / 平成19年度との比較



(3) 外国人とのトラブル経験

◇「特にない」が約6割で最も高いが、「ごみの出し方のルールのこと」が2割弱、「部屋からの声・物音のこと」が1割台半ば近くトラブルもある

問14 あなたは今までに、外国人と関連して、近所で次のようなトラブルの経験がありますか。
(○はいくつでも)

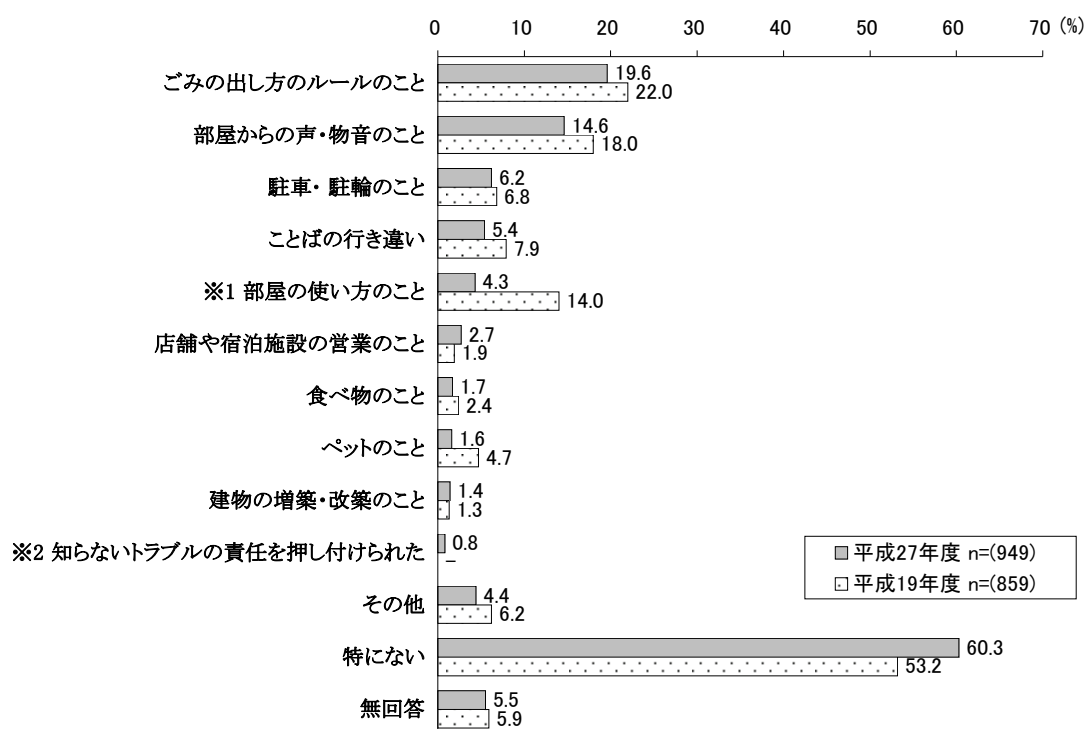
[n=949]

1	ごみの出し方のルールのこと	19.6%	8	部屋の使い方のこと	4.3
2	部屋からの声・物音のこと	14.6	9	知らないトラブルの責任を押し付けられた	0.8
3	ペットのこと	1.6	10	ことばの行き違い	5.4
4	食べ物のこと	1.7	11	その他	4.4
5	駐車・駐輪のこと	6.2	12	特にない	60.3
6	建物の増築・改築のこと	1.4		(無回答)	5.5
7	店舗や宿泊施設の営業のこと	2.7			

外国人とのトラブル経験が「特にない」(60.3%)が約6割である。ただし、全体の人数から「特にない」・「無回答」の人数を減じてみると325人であり、全体の34.2%が何らかのトラブルを経験しており、今回の調査では、「ごみの出し方のルールのこと」(19.6%)は2割弱、「部屋からの声・物音のこと」(14.6%)は1割台半ば近い。

平成19年度との比較については、項目数が異なるため参考として順位を比べるにとどめるが、「特にない」を除けば、「ごみの出し方のルールのこと」が第1位、「部屋からの声・物音のこと」が第2位であることは、平成19年度と変わらない。(図表2-8)

<図表2-8>外国人とのトラブル経験(複数回答) / (参考)平成19年度との比較



(注) ※1 「部屋の使い方」は、平成19年度では「1つの部屋に大勢の人が出入りすること」であった。

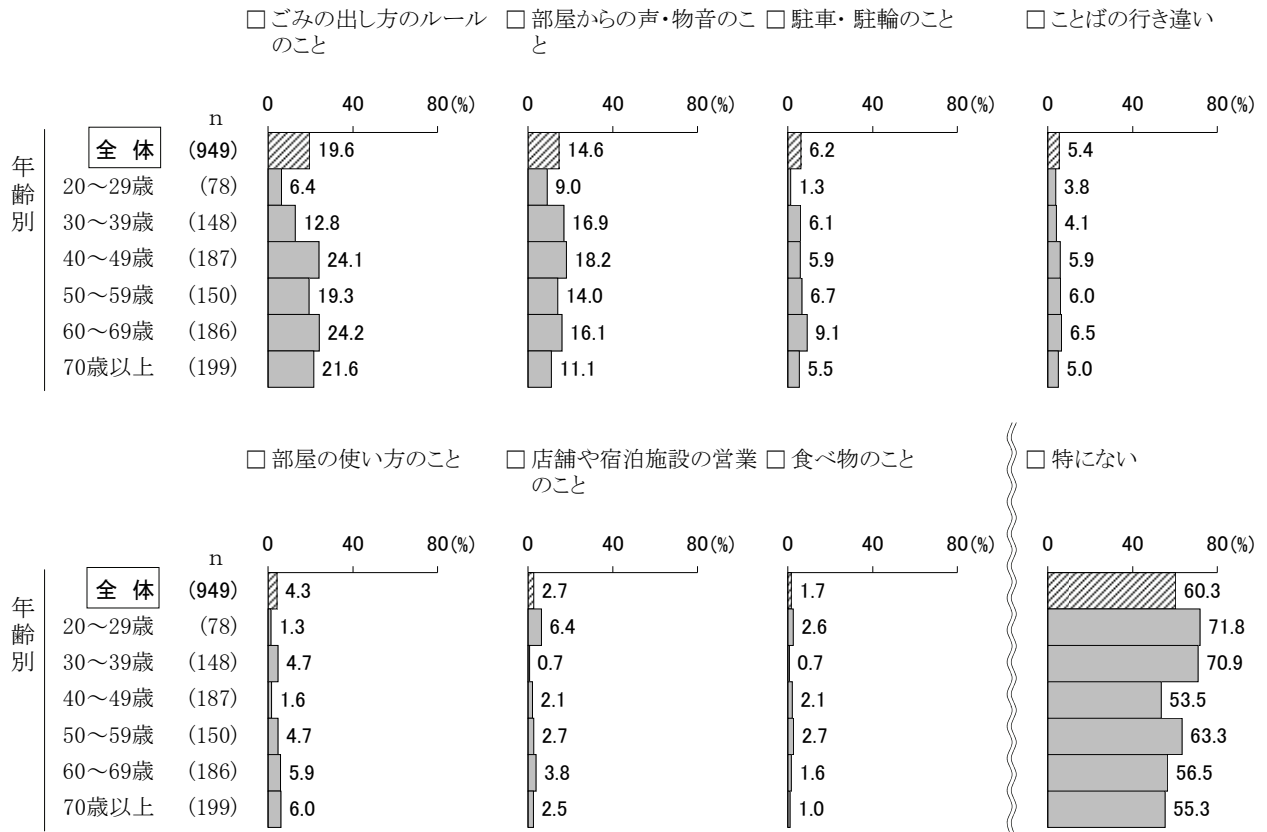
(注) ※2 今回調査で新設した項目である。

【年齢別】

上位7項目及び「特にない」について年齢別でみることにする。先に、「特にない」にふれておくと、「20～29歳」で7割強、「30～39歳」で約7割と高くなっている。

「ごみの出し方のルールのこと」は、「40～49歳」と「60～69歳」で2割台半ば近く高い。「部屋からの声・物音のこと」は、「40～49歳」で2割近くと最も高く、次いで「30～39歳」で1割台半ばを超える。(図表2-9)

<図表2-9>外国人とのトラブル経験(複数回答)《年齢別》(上位7項目+「特にない」)

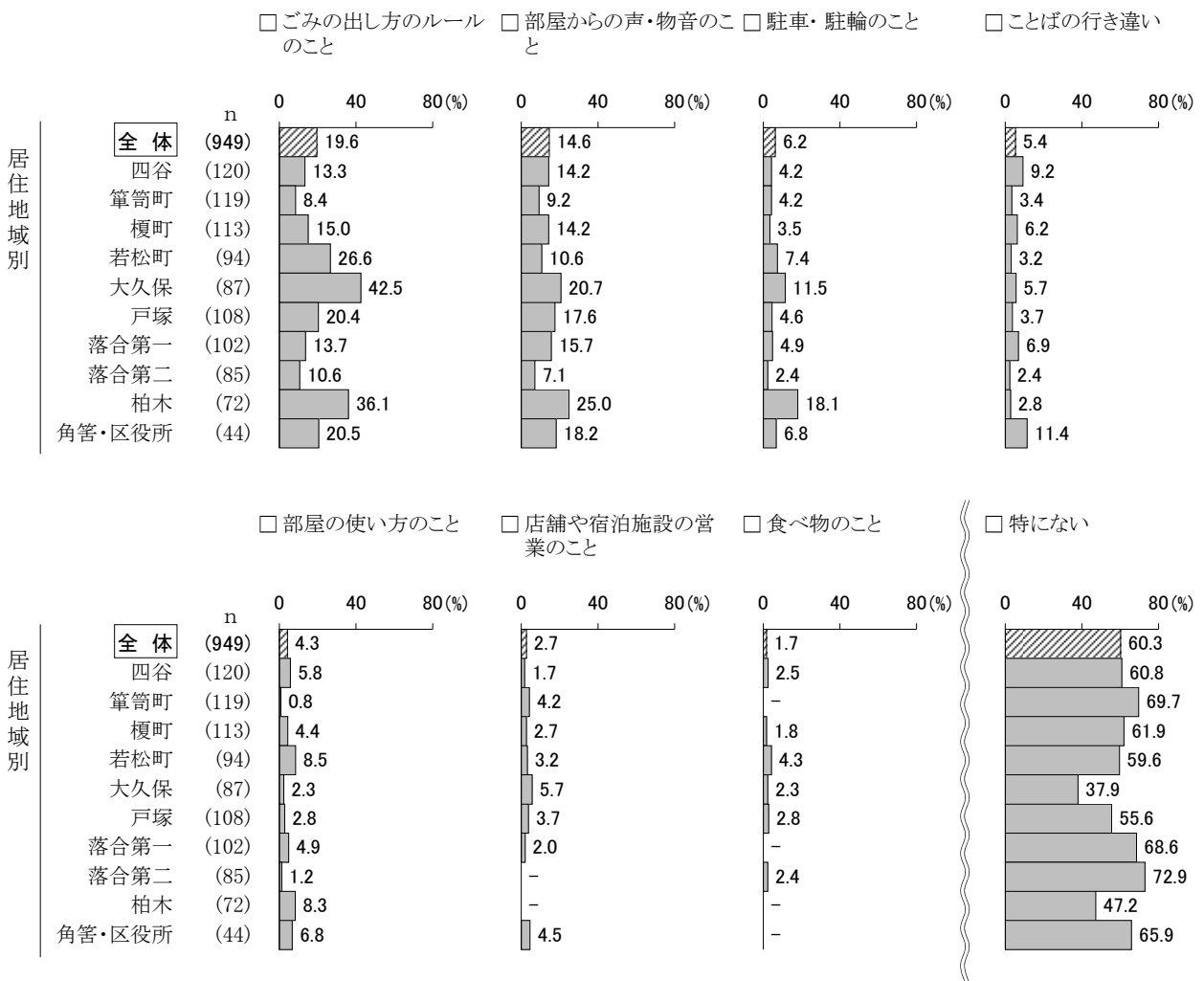


【居住地域別】

上位7項目及び「特にない」について居住地域別でみることにする。先に、「特にない」にふれておくと、“落合第二”で7割強と最も高く、次いで“笹筒町”で7割弱、“落合第一”で7割近いが、“大久保”と“柏木”では低くなっている。

「ごみの出し方のルールのこと」は、“大久保”で4割強と最も高く、次いで“柏木”で3割台半ばを超える。この2つの居住地域は、「部屋からの声・物音のこと」、「駐車・駐輪のこと」でも高い傾向にある。(図表2-10)

<図表2-10>外国人とのトラブル経験(複数回答)《居住地域別》(上位7項目+「特にない」)



3 偏見・差別

(1) 日本人から外国人に対する偏見や差別

◇日本人から外国人に対する偏見や差別が《あると思う》が5割強で、《ないと思う》の3割強を上回る

◇偏見や差別があると思うときは「住まいを探すとき」が4割強で最も高い

◇偏見や差別をなくすために必要なことは「お互いの生活習慣の違いを認め合う」が約5割で最も高い

問15 あなたは、日本人から外国人に対する偏見や差別があると思いますか。(○は1つだけ)

[n=949]

1 全くないと思う	4.0%	4 よくあると思う	10.5
2 あまりないと思う	28.9	5 わからない	13.7
3 ときどきあると思う	40.8	(無回答)	2.1

(問15で、「3」か「4」とお答えの方に)

問15-1 偏見・差別はどのような場合にあると思いますか。(○はいくつでも)

[n=487]

1 公的機関などの手続きのとき	15.6%	7 社会保障制度のこと	17.2
2 日本人の友人との付き合いのとき	11.5	8 電車・バス等に乗っているとき	15.8
3 近所の人との付き合いのとき	34.9	9 出産・育児の場面	3.9
4 住まいを探すとき	41.3	10 学校など教育の場	21.1
5 自分や家族が結婚するとき	25.9	11 仕事するとき	22.8
6 法制度のこと	16.6	12 その他	10.5
		(無回答)	2.7

(問15で、「3」か「4」とお答えの方に)

問15-2 偏見・差別をなくすためには、何が重要だと思いますか。(○はいくつでも)

[n=487]

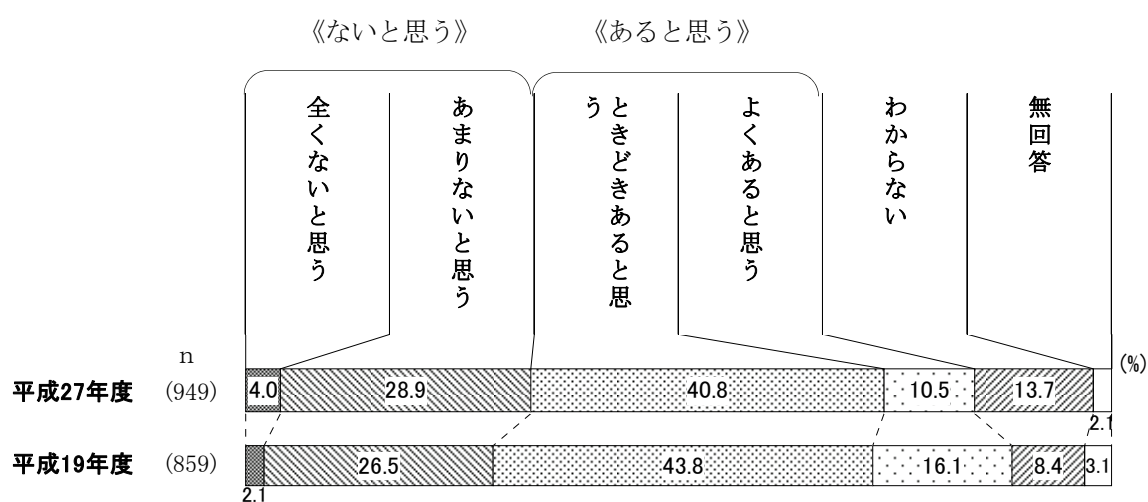
1 日本人と外国人が交流する	31.8%	4 お互いの生活習慣の違いを認め合う	50.7
2 お互いを認め合う教育を進める	43.5	5 その他	8.0
3 お互いの文化を知る	48.3	6 わからない	5.5
		(無回答)	8.2

①日本人から外国人に対する偏見や差別の有無

日本人から外国人に対する偏見や差別については、「全くないと思う」(4.0%)と「あまりないと思う」(28.9%)を合わせて、《ないと思う》(32.9%)が3割強となっている。一方、「ときどきあると思う」(40.8%)が約4割と最も高くなっており、「よくあると思う」(10.5%)と合わせると、《あると思う》(51.3%)が5割強と高い。

平成19年度と比較すると、《あると思う》が8.6ポイント減少している。しかし、「わからない」が5.3ポイント増加している。(図表3-1)

<図表3-1>日本人から外国人に対する偏見や差別の有無／平成19年度との比較

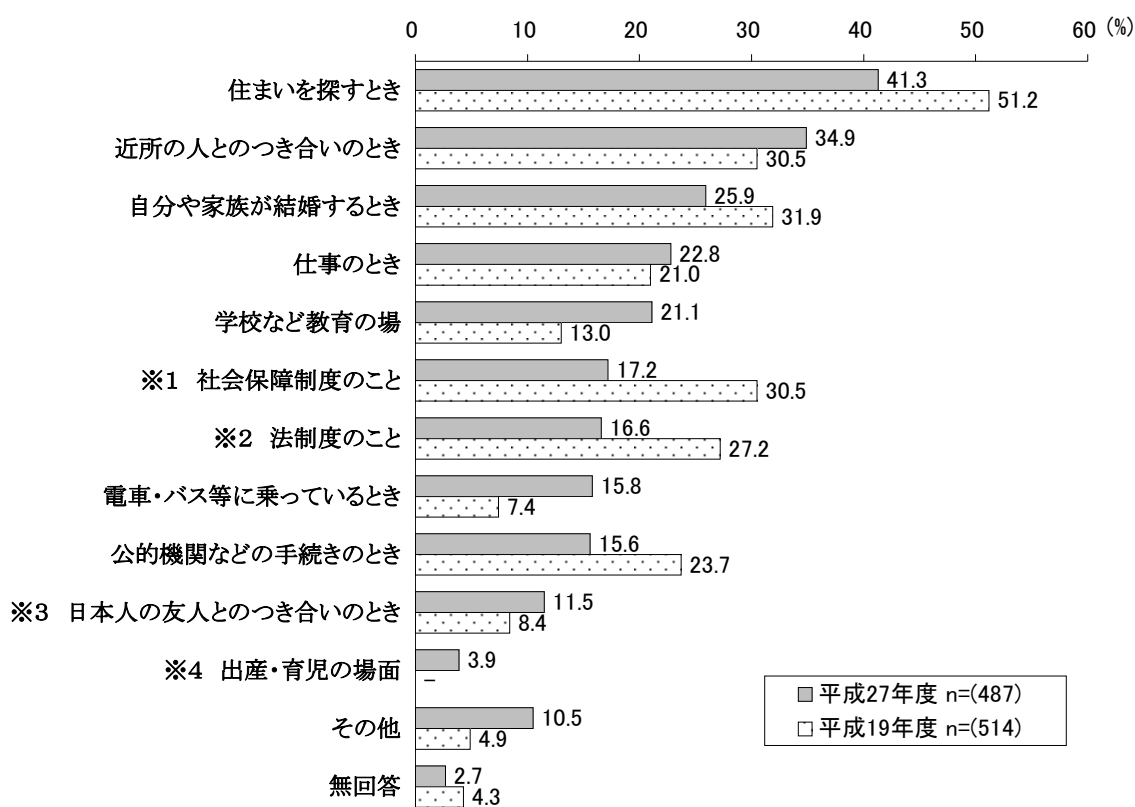


②偏見・差別があると思われるとき

問15で、日本人から外国人に対する偏見や差別が《あると思う》と回答した人に、どのような場合にあると思うかを聞いた。その結果、「住まいを探すとき」(41.3%)が4割強で最も高くなっている。次いで「近所の人との付き合いのとき」(34.9%)は3割台半ば近く、「自分や家族が結婚するとき」(25.9%)は2割台半ば、「仕事のとき」(22.8%)と「学校など教育の場」(21.1%)は2割強となっている。

平成19年度との比較については、項目数が異なるため参考として順位を比べるにとどめるが、「住まいを探すとき」が第1位であることは平成19年度と変わらないが、「近所の人との付き合いのとき」と「自分や家族が結婚するとき」が順位を入れ替え、今回は「近所の人との付き合いのとき」が第2位となっている。(図表3-2)

<図表3-2> 偏見・差別があると思われるとき (複数回答) / (参考) 平成19年度との比較



(注) ※1 「社会保障制度のこと」は、平成19年度では「社会保障制度の面で」であった。

(注) ※2 「法制度のこと」は、平成19年度では「法制度の面で」であった。

(注) ※3 「日本人の友人との付き合いのとき」は、平成19年度では「日本人の友人との交際のとき」であった。

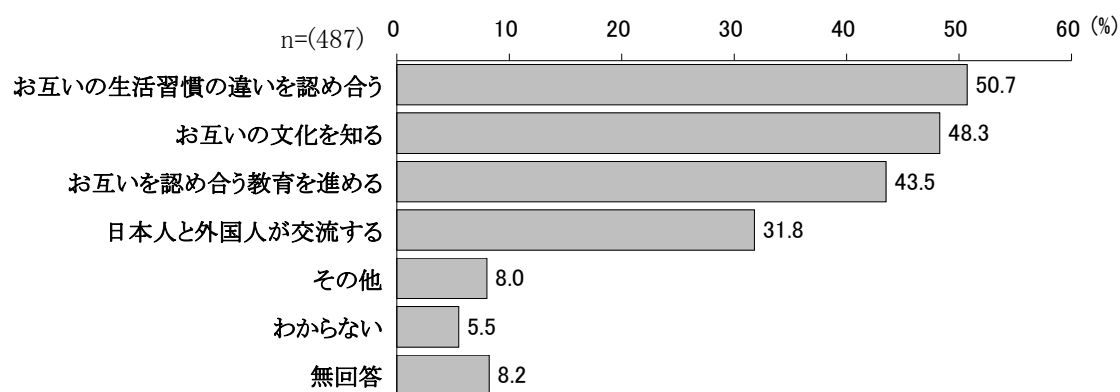
(注) ※4 今回調査で新設した項目である。

③偏見・差別をなくすために必要だと思うこと

偏見・差別をなくすために必要なこととしては、「お互いの生活習慣の違いを認め合う」(50.7%)が約5割で最も高くなっている。次いで「お互いの文化を知る」(48.3%)は5割近く、「お互いを認め合う教育を進める」(43.5%)は4割台半ば近くとなっている。(図表3-3)

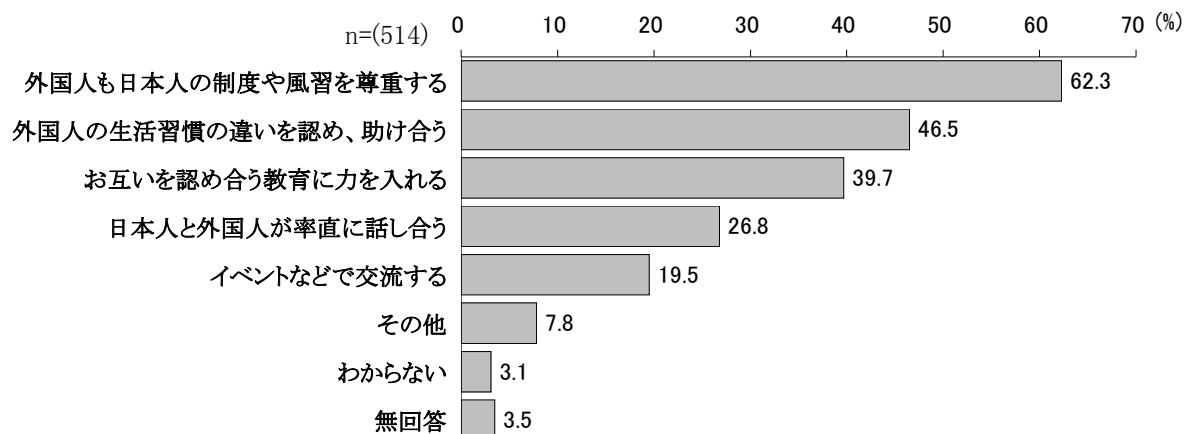
平成19年度にも同様の設問を聞いているが、項目の内容を大幅に変更しているため、参考として掲載する。(図表3-4)

<図表3-3>偏見・差別をなくすために必要だと思うこと(複数回答)



<図表3-4>偏見・差別をなくすために必要だと思うこと(参考)平成19年度

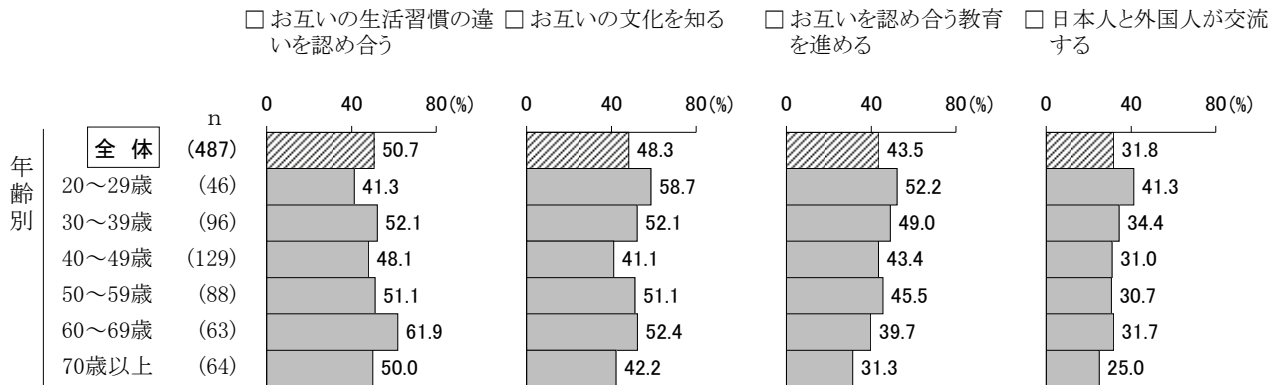
問 偏見や差別をなくすためには、何が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)



【年齢別】

「お互いの生活習慣の違いを認め合う」は“60～69歳”で6割強、「お互いの文化を知る」は“20～29歳”で6割近くと最も高くなっている。「お互いを認め合う教育を進める」は“20～29歳”で5割強、「日本人と外国人が交流する」でも“20～29歳”は4割強と最も高く、それぞれおおむね年齢が上がるほど低くなっている。(図表3-5)

<図表3-5> 偏見・差別をなくすために必要だと思うこと《年齢別》



4 災害時・緊急時の協力

(1) 新宿区に望む災害対策

◇「避難場所の掲示等に外国語を併記する」が6割強で最も高い

問16 地震などの災害が起こった時には、外国人を含めて、地域住民で協力し合って対応することが求められます。あなたは、新宿区にどのような対策を望みますか。(〇はいくつでも)

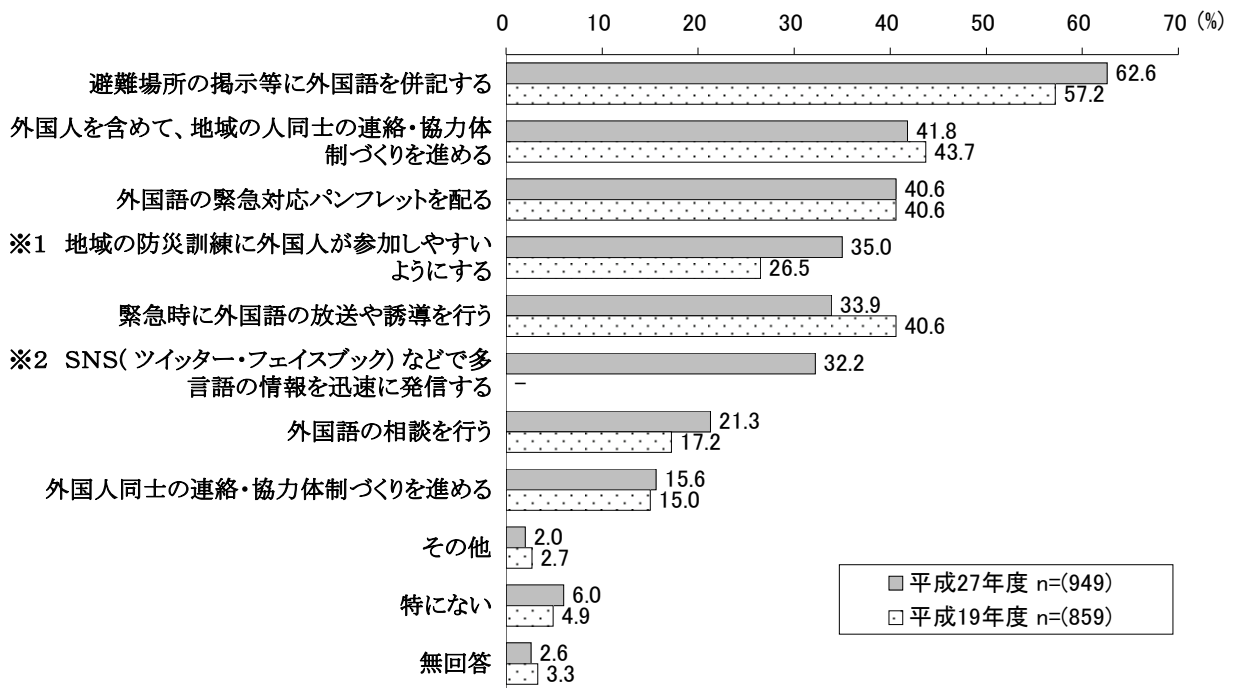
[n=949]

1	避難場所の掲示等に外国語を併記する	62.6%
2	外国語の緊急対応パンフレットを配る	40.6
3	緊急時に外国語の放送や誘導を行う	33.9
4	SNS(ツイッター・フェイスブック)などで多言語の情報を迅速に発信する	32.2
5	外国語の相談を行う	21.3
6	地域の防災訓練に外国人が参加しやすいようにする	35.0
7	外国人を含めて、地域の人同士の連絡・協力体制づくりを進める	41.8
8	外国人同士の連絡・協力体制づくりを進める	15.6
9	その他	2.0
10	特にない	6.0
	(無回答)	2.6

新宿区に望む災害対策としては、「避難場所の掲示等に外国語を併記する」(62.6%)が6割強で最も高くなっている。次いで「外国人を含めて、地域の人同士の連絡・協力体制づくりを進める」(41.8%)は4割強、「外国語の緊急対応パンフレットを配る」(40.6%)は約4割となっている。

平成19年度との比較については、項目数が異なるため参考として順位を比べるにとどめるが、「避難場所の掲示等に外国語を併記する」が第1位、「外国人を含めて、地域の人同士の連絡・協力体制づくりを進める」が第2位、「外国語の緊急対応パンフレットを配る」が第3位であることは、平成19年度と変わらない。ただし、平成19年度には、「外国語の緊急対応パンフレットを配る」のほか、「緊急時に外国語の放送や誘導を行う」も第3位であったが、今回は第5位に順位を下げており、「地域の防災訓練に外国人が参加しやすいようにする」が第4位に入っている。(図表4-1)

<図表 4-1>新宿区に望む災害対策（複数回答）／（参考）平成19年度との比較



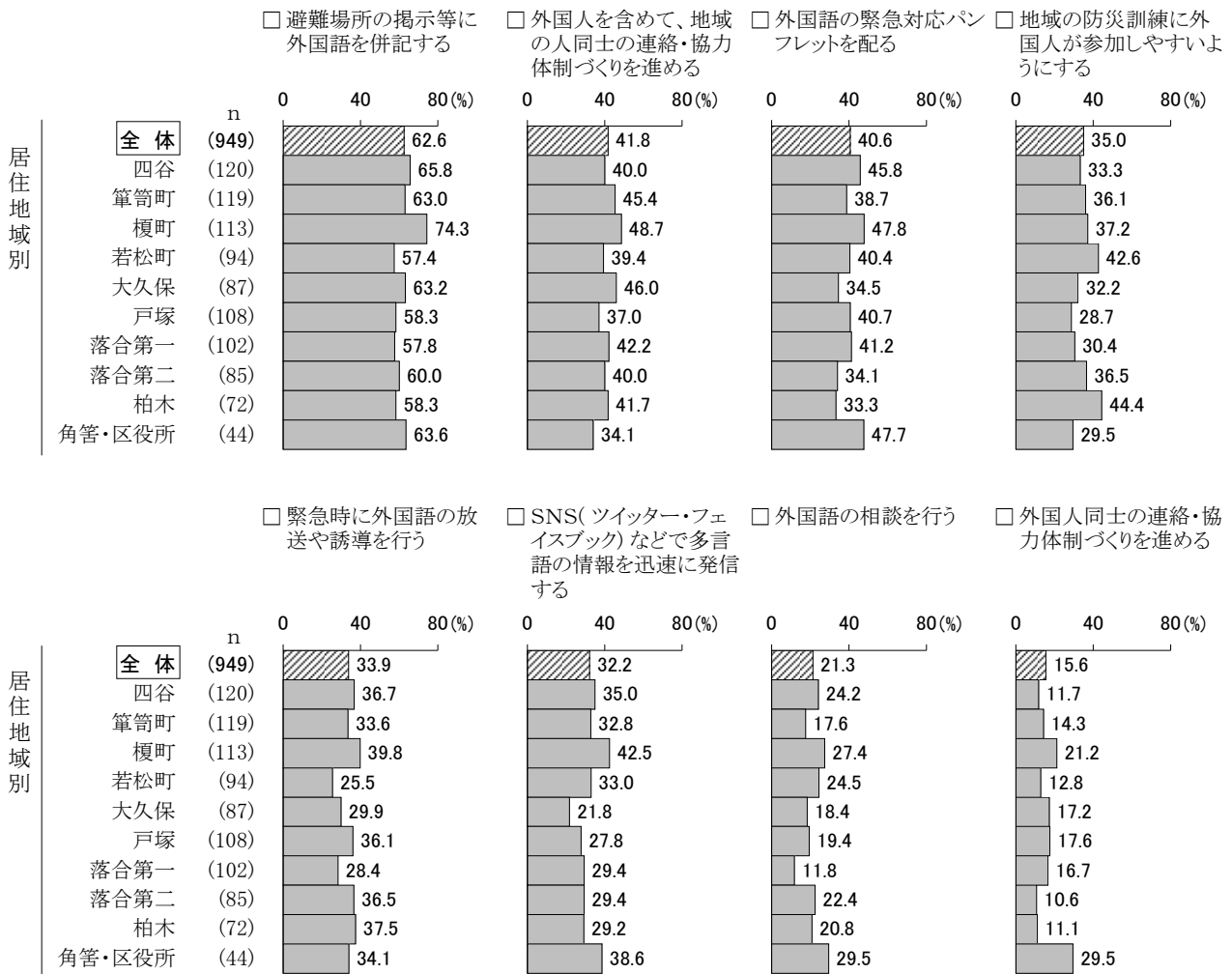
(注) ※1 「地域の防災訓練に外国人が参加しやすいようにする」は、平成19年度では「地域の防災訓練に外国人といっしょに参加する」であった。

(注) ※2 今回調査で新設した項目である。

【居住地域別】

「避難場所の掲示等に外国語を併記する」は、いずれの居住地地域でも高く、中でも“榎町”で7割台半ば近く最も高い。このほか、“榎町”は「外国人を含めて、地域の人同士の連絡・協力体制づくりを進める」、「外国語の緊急対応パンフレットを配る」、「緊急時に外国語の放送や誘導を行う」、「SNS(ツイッター・フェイスブック)などで多言語の情報を迅速に発信する」でも、他の居住地域に比べて最も高い。また、「地域の防災訓練に外国人が参加しやすいようにする」は、“柏木”で4割台半ば近くと最も高くなっており、次いで“若松町”で4割強である。(図表4-2)

＜図表4-2＞新宿区に望む災害対策《居住地域別》



5 多文化共生のまちづくり

(1) 多文化共生社会という言葉の認知度

◇ 《知っている》は約2割、「聞いたことはある」は約4割

問17 『多文化共生社会』という言葉があります。この言葉は、「国籍や民族などの異なる人々が互いの文化的違いを認め、理解し、地域で共に生きていく社会」を言います。

あなたは、この言葉を見たり聞いたりしたことがありますか。(○は1つだけ)

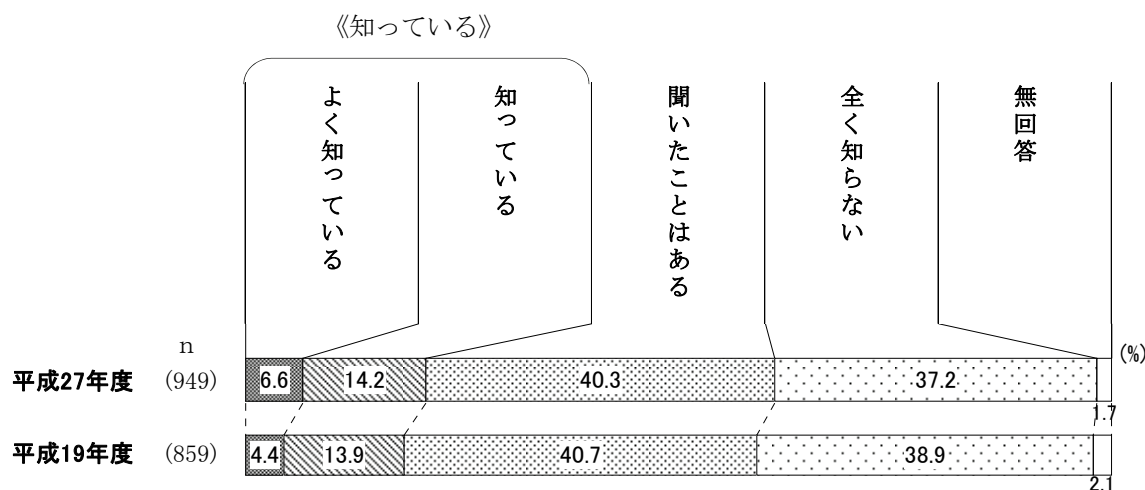
[n=949]

1 よく知っている	6.6%	3 聞いたことはある	40.3
2 知っている	14.2	4 全く知らない	37.2
		(無回答)	1.7

多文化共生社会という言葉を「よく知っている」(6.6%)は1割に満たないものの、「知っている」(14.2%)は1割台半ば近く、これらを合わせた《知っている》(20.8%)は約2割である。しかし、「聞いたことはある」(40.3%)が約4割と最も高く、また、「全く知らない」(37.2%)が3割台半ばを超える。

平成19年度と比較しても、特に大きな違いはみられない。(図表5-1)

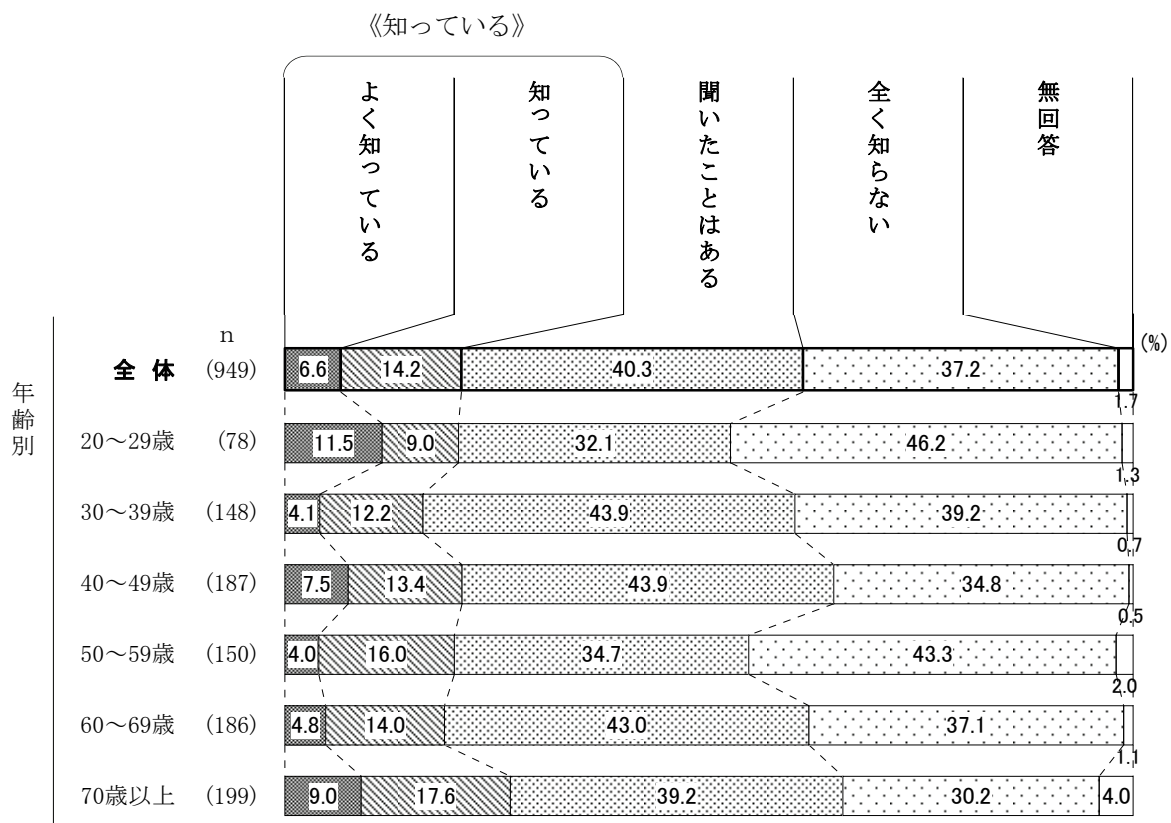
<図表5-1> 多文化共生社会という言葉の認知度／平成19年度との比較



【年齢別】

《知っている》は、“70歳以上”で2割台半ばを超え最も高くなっている。いずれの年齢層でも「聞いたことはある」か「全く知らない」が高くなっているが、特に、“20～29歳”と“50～59歳”は、「全く知らない」が4割台半ば前後と高い。(図表5-2)

＜図表5-2＞多文化共生社会という言葉の認知度《年齢別》



(2) しんじゅく多文化共生プラザについて

◇しんじゅく多文化共生プラザを「はじめて知った」は8割弱

問18 新宿区では、日本人と外国人の交流施設「しんじゅく多文化共生プラザ」を設置して、日本語学習、資料・情報の提供、交流会や講座等を行っています。あなたは、この施設を知っていましたか。(○は1つだけ)

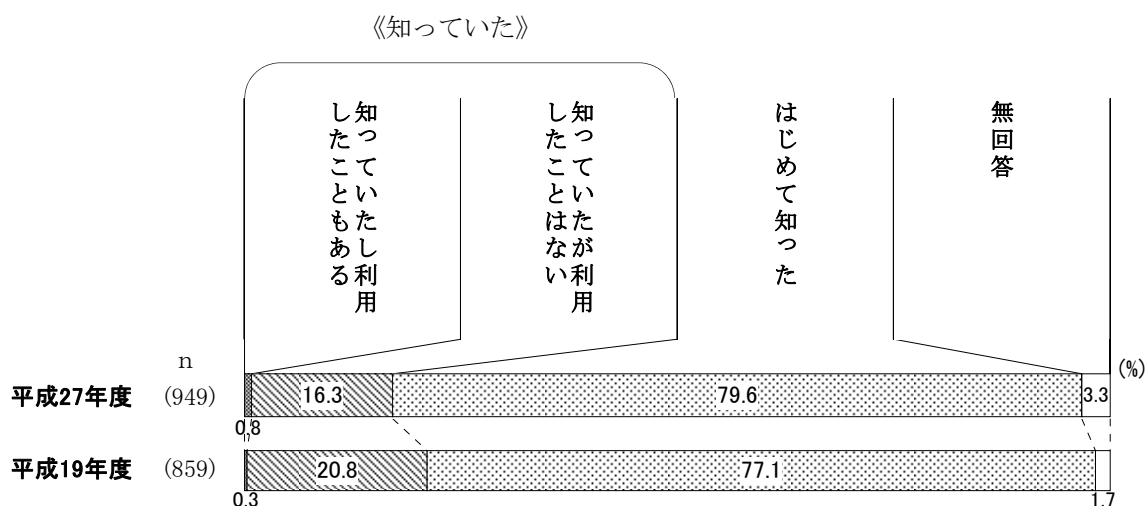
[n=949]

1	知っていたし利用したこともある	0.8%	3	はじめて知った	79.6
2	知っていたが利用したことはない	16.3		(無回答)	3.3

しんじゅく多文化共生プラザを「はじめて知った」(79.6%)は8割弱で高くなっている。「知っていたし利用したこともある」(0.8%)と「知っていたが利用したことはない」(16.3%)を合わせると、「知っていた」(17.1%)は1割台半ばを超えるにとどまっている。

平成19年度と比較しても、特に大きな違いはみられない。(図表5-3)

<図表5-3>しんじゅく多文化共生プラザについて/平成19年度との比較



(3) 多文化共生のまちづくり推進のために自分ができると思うこと

◇「あいさつなど声をかけ合う」が6割近く最も高い

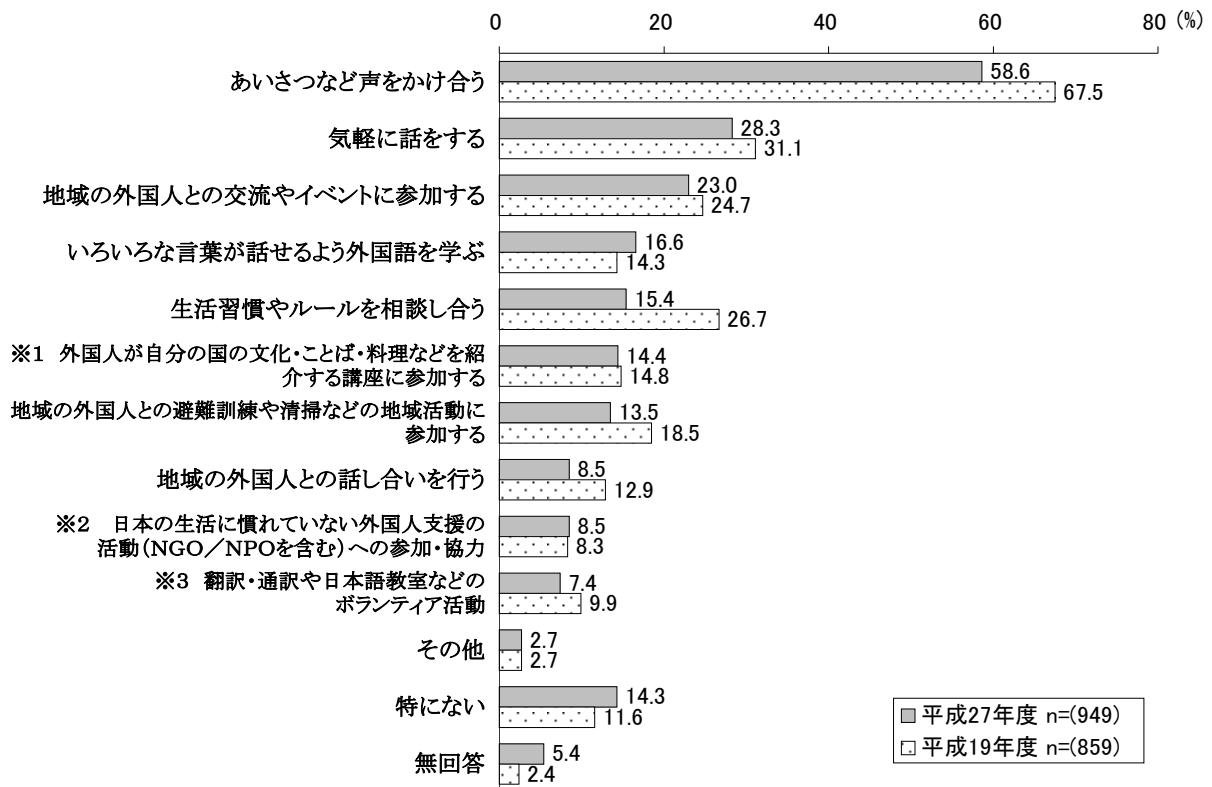
問19	「多文化共生のまちづくり」を進めるために、あなたは何ができると思いますか。	(〇はいくつでも)
	[n=949]	
1	あいさつなど声をかけ合う	58.6%
2	気軽に話をする	28.3
3	生活習慣やルールを相談し合う	15.4
4	地域の外国人との話し合いを行う	8.5
5	地域の外国人との交流やイベントに参加する	23.0
6	地域の外国人との避難訓練や清掃などの地域活動に参加する	13.5
7	外国人が自分の国の文化・ことば・料理などを紹介する講座に参加する	14.4
8	いろいろな言葉が話せるよう外国語を学ぶ	16.6
9	翻訳・通訳や日本語教室などのボランティア活動	7.4
10	日本の生活に慣れていない外国人支援の活動(NGO/NPOを含む)への参加・協力	8.5
11	その他	2.7
12	特にない	14.3
	(無回答)	5.4

多文化共生のまちづくり推進のために自分ができると思うこととしては、「あいさつなど声をかけ合う」(58.6%)が6割近くで最も高くなっている。次いで「気軽に話をする」(28.3%)は3割近く、「地域の外国人との交流やイベントに参加する」(23.0%)は2割台半ば近い。

平成19年度とは一部選択肢の文言が異なるものの、試みとして比較してみると、大半の項目で減少しており、中でも「生活習慣やルールを相談し合う」は11.3ポイント減少している。このほか、「あいさつなど声をかけ合う」は8.9ポイント、「地域の外国人との避難訓練や清掃などの地域活動に参加する」は5.0ポイント減少している。(図表5-4)

<図表 5-4> 多文化共生のまちづくり推進のために自分ができると思うこと（複数回答）

／（参考）平成19年度との比較



(注) ※1 「外国人が自分の国の文化・ことば・料理などを紹介する講座に参加する」は、平成19年度調査では「外国人が自分の国の文化・ことばを紹介する講座に参加する」であった。

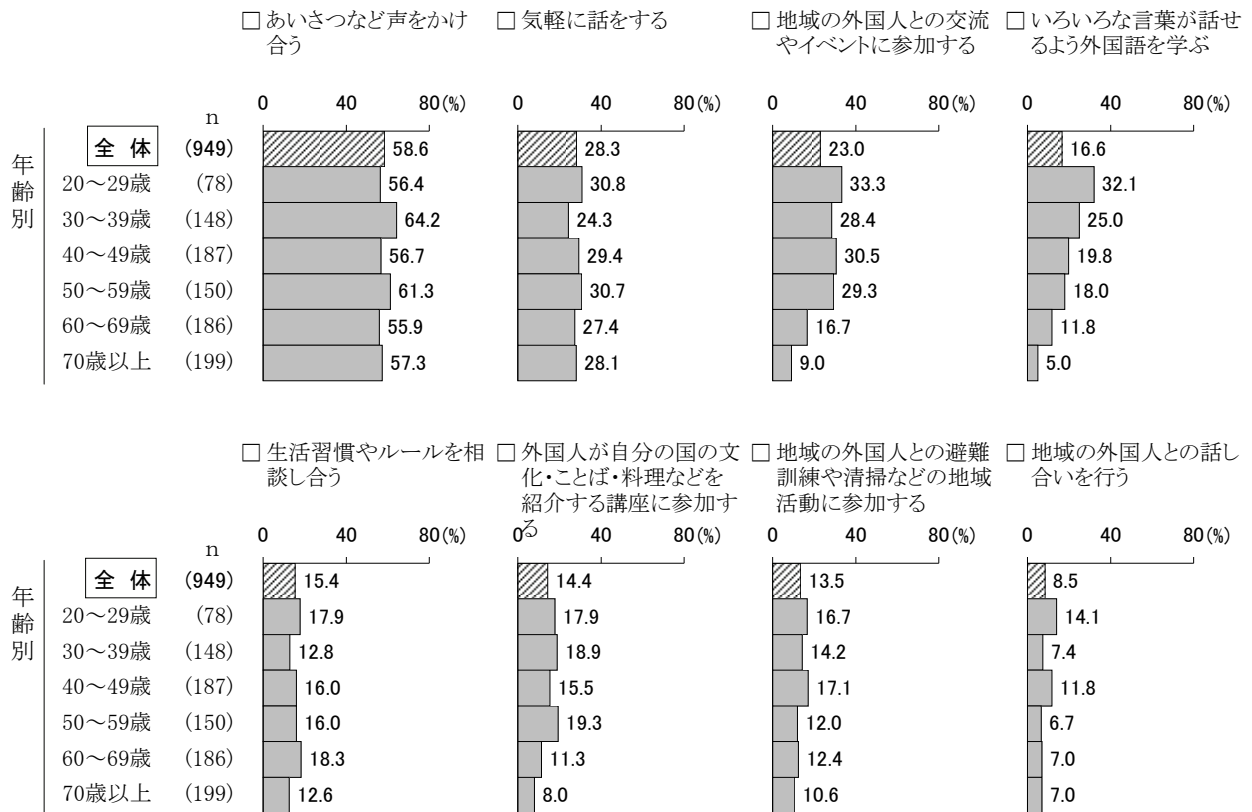
(注) ※2 「日本の生活に慣れていない外国人支援の活動（NGO/NPOを含む）への参加・協力」は、平成19年度調査では「外国人支援の活動（NGO/NPOを含む）」であった。

(注) ※3 「翻訳・通訳や日本語教室などのボランティア活動」は、平成19年度調査では「通訳や日本語教室などのボランティア活動」であった。

【年齢別】

上位8項目について年齢別でみると、「あいさつなど声をかけ合う」は、いずれの年齢層でも高くなっており、中でも“30～39歳”で6割台半ば近くと最も高くなっており、次いで“50～59歳”で6割強となっている。このほか、「地域の外国人との交流やイベントに参加する」と「いろいろな言葉が話せるよう外国語を学ぶ」は、“20～29歳”で高く、おおむね年齢が上がるほど低くなる。(図表5-5)

<図表5-5>多文化共生のまちづくり推進のために自分ができると思うこと《年齢別》(上位8項目)

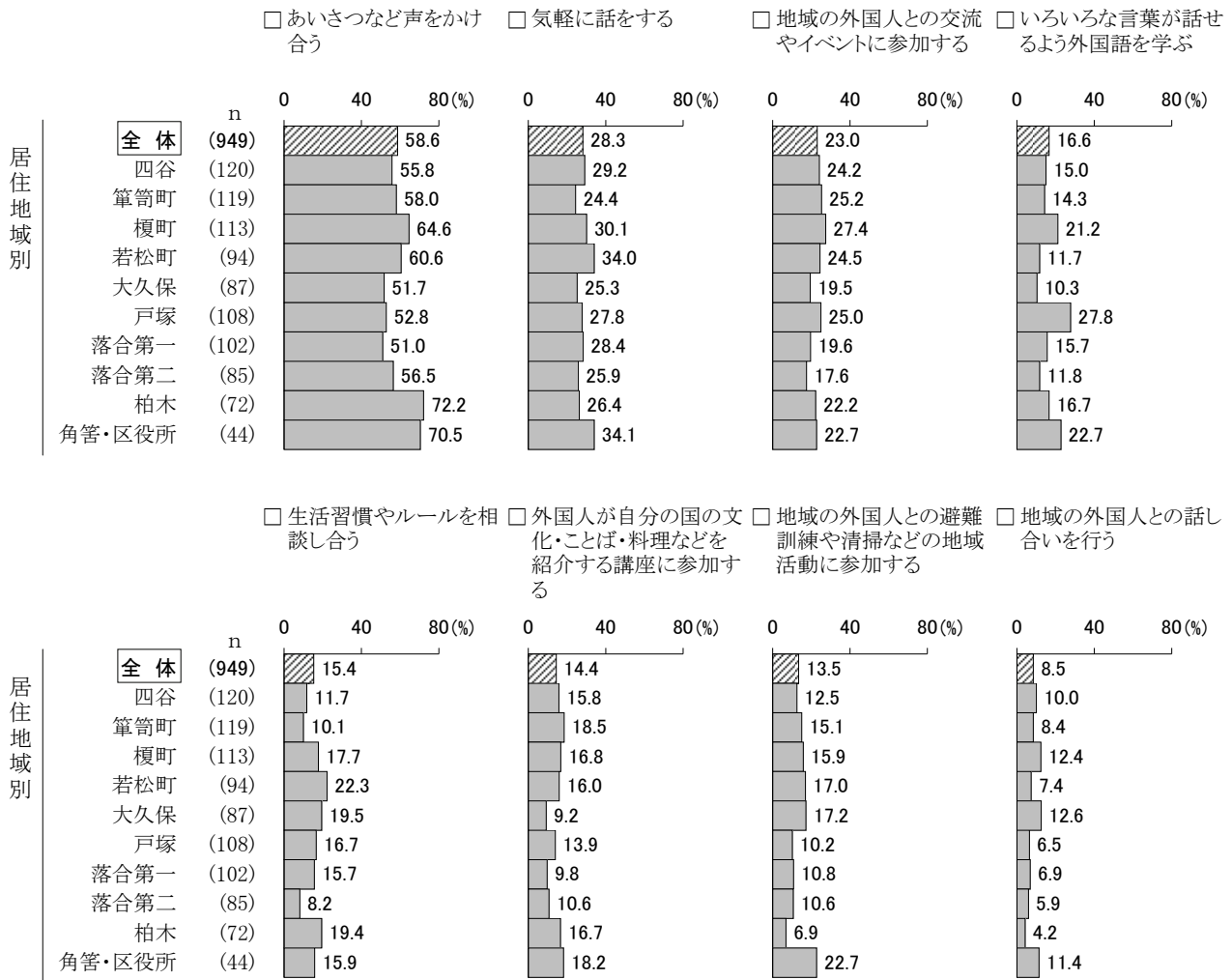


【居住地域別】

上位8項目について居住地域別でみると、「あいさつなど声をかけ合う」は、「柏木」で7割強と最も高く、次いで「角筈・区役所」で約7割となっている。「気軽に話をする」は「角筈・区役所」と「若松町」で3割台半ば近く並んで高く、「いろいろな言葉が話せるよう外国語を学ぶ」は「戸塚」で2割台半ばを超え最も高くなっている。(図表5-6)

<図表5-6> 多文化共生のまちづくり推進のために自分ができると思うこと《居住地域別》

(上位8項目)



(4) 多文化共生のまちづくり推進のために新宿区が力を入れるべきと思うこと

◇「日本人と外国人の交流会やイベント」が約4割で最も高く、「日本の文化や生活情報を外国語で知らせる」は3割台半ばを超える

問20 「多文化共生のまちづくり」を進めるために、今後の区の対応として、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇はいくつでも)

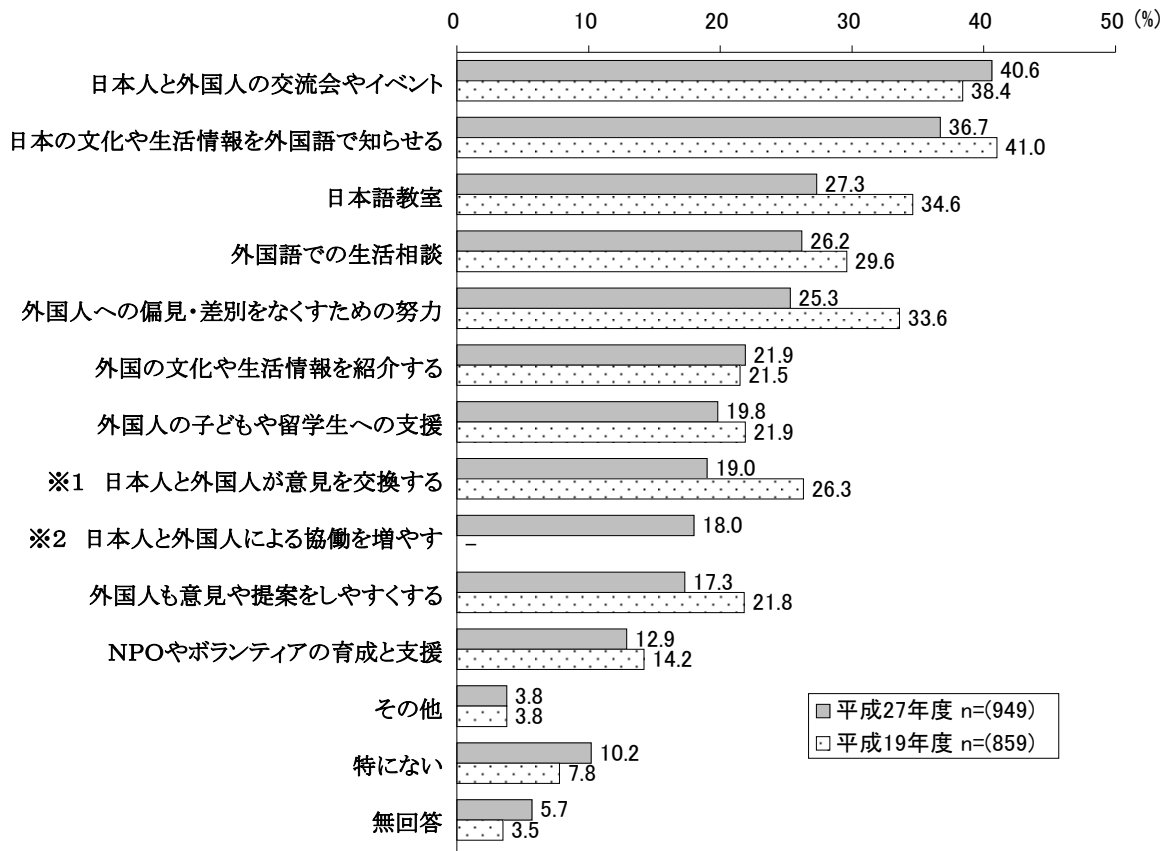
[n=949]

1	日本人と外国人の交流会やイベント	40.6%
2	日本の文化や生活情報を外国語で知らせる	36.7
3	外国の文化や生活情報を紹介する	21.9
4	外国語での生活相談	26.2
5	日本語教室	27.3
6	日本人と外国人が意見を交換する	19.0
7	日本人と外国人による協働を増やす	18.0
8	NPOやボランティアの育成と支援	12.9
9	外国人への偏見・差別をなくすための努力	25.3
10	外国人の子どもや留学生への支援	19.8
11	外国人も意見や提案をしやすいとする	17.3
12	その他	3.8
13	特になし	10.2
	(無回答)	5.7

多文化共生のまちづくり推進のために新宿区が力を入れるべきと思うこととしては、「日本人と外国人の交流会やイベント」(40.6%)が約4割で最も高く、次いで「日本の文化や生活情報を外国語で知らせる」(36.7%)は3割台半ばを超えている。このほか、「日本語教室」(27.3%)と「外国語での生活相談」(26.2%)は2割台半ばを超えている。

平成19年度との比較については、項目数が異なるため参考として順位を比べるにとどめるが、「日本人と外国人の交流会やイベント」と「日本の文化や生活情報を外国語で知らせる」が順位を入れ替えたものの、「日本語教室」を含め、上位3項目は平成19年度と変わらない。(図表5-7)

<図表 5-7> 多文化共生のまちづくり推進のために新宿区が力を入れるべきと思うこと(複数回答)
 / (参考) 平成19年度との比較

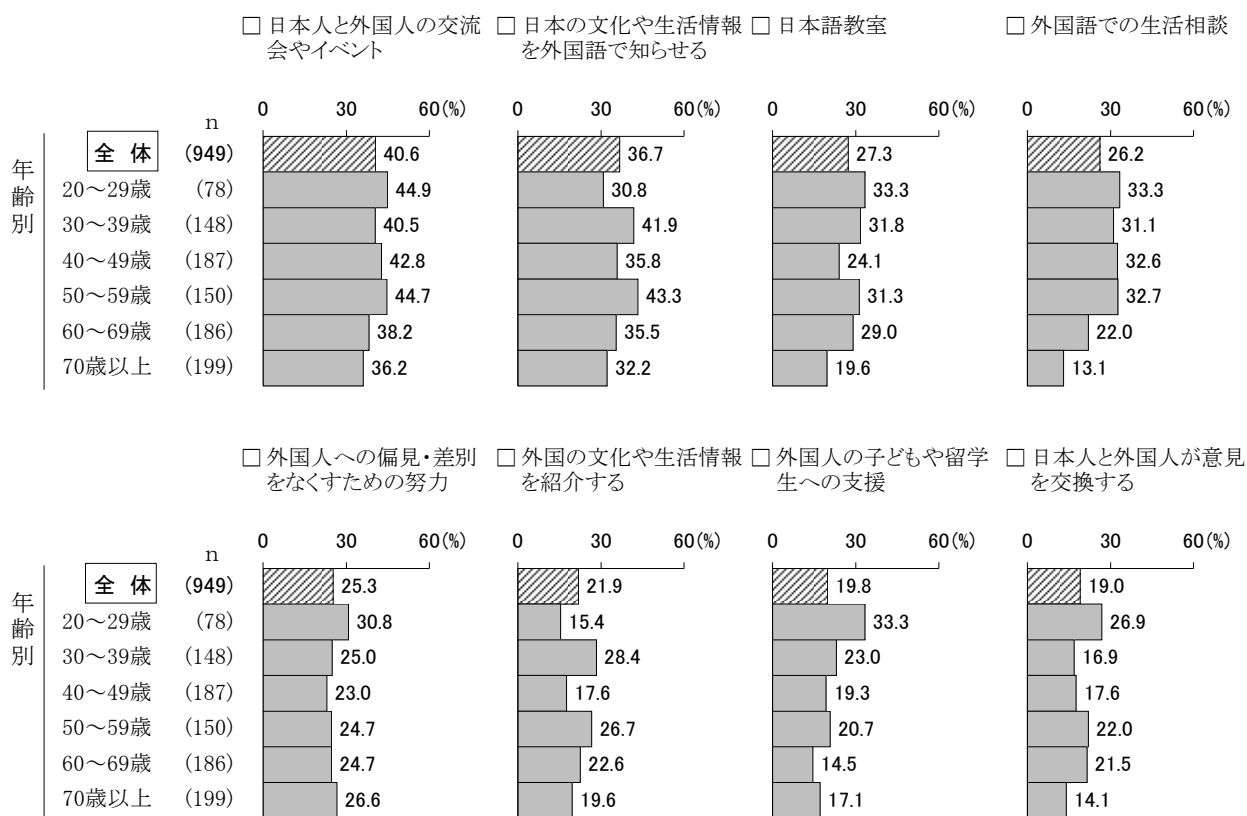


(注) ※1 「日本人と外国人が意見を交換する」は、平成19年度調査では「日本人と外国人の意見交換会・話し合い」であった。
 (注) ※2 今回調査で新設した項目である。

【年齢別】

上位8項目について年齢別でみると、「日本人と外国人の交流会やイベント」は、“20～29歳”と“50～59歳”で4割台半ば近くおおむね並んでいる。「日本の文化や生活情報を外国語で知らせる」でも、“50～59歳”は4割台半ば近く、次いで“30～39歳”で4割強となっている。このほか、「日本の文化や生活情報を外国語で知らせる」「外国の文化や生活情報を紹介する」を除いて、“20～29歳”が他の年齢層に比べて高い傾向にある。(図表5-8)

<図表5-8> 多文化共生のまちづくり推進のために新宿区が力を入れるべきと思うこと《年齢別》
(上位8項目)



(5) 新宿区への期待

◇「日本人も外国人も共に認め合い、協力し合う暮らしやすいまち」が6割強で最も高い

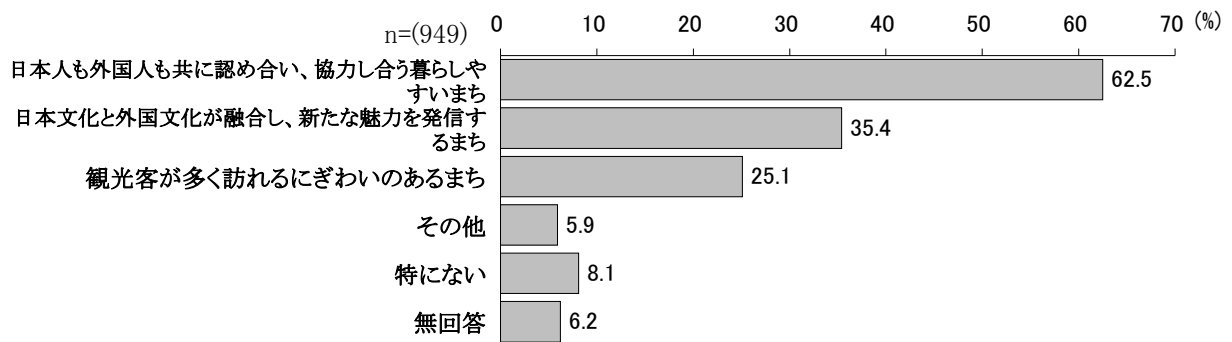
問21 これから新宿区がどのようなまちになっていくことを期待しますか。(〇はいくつでも)

[n=949]

1 観光客が多く訪れるにぎわいのあるまち	25.1%
2 日本文化と外国文化が融合し、新たな魅力を発信するまち	35.4
3 日本人も外国人も共に認め合い、協力し合う暮らしやすいまち	62.5
4 その他	5.9
5 特にない	8.1
(無回答)	6.2

新宿区への期待としては、「日本人も外国人も共に認め合い、協力し合う暮らしやすいまち」(62.5%)が6割強で最も高くなっている。次いで「日本文化と外国文化が融合し、新たな魅力を発信するまち」(35.4%)が3割台半ば、「観光客が多く訪れるにぎわいのあるまち」(25.1%)は2割台半ばとなっている。(図表5-9)

<図表5-9>新宿区への期待 (複数回答)



6 自由回答（抜粋）

新宿区をもっと住みやすいまちにするために、あなたのご意見を自由に書いてください。

新宿区の多文化共生のまちづくりに対する意見や要望を自由に記入していただいたところ、379件のご意見が寄せられた。その主な内容について掲載する。

- ・類似した内容のご意見については、その主なものを記載した。
- ・原文を可能な限り尊重し、特定の個人・団体等が特定されないように配慮するとともに、誤字・脱字と思われるものは修正した。

- このアンケート調査に参加させていただいたことで、新宿区政が、多文化共生によって平和な国際都市をめざしていることを知りました。（女性／70歳以上／角筈・区役所）
- 日本人同士のつき合いも希薄なのに、外国人とのつき合いが積極的にできるとは思えない。まず、新宿区が日本人にとって住みやすく、長く暮らせるまちにならなければ効果はあがらないと思います。（男性／40歳代／角筈・区役所）
- 外国人に日本人の文化・考え方・習慣を知らせてほしい。大きな声でしゃべらない、タバコを外で吸わない、ツバを吐かない、自分の主張ばかりしないなど。（女性／50歳代／若松町）
- 近所の外国人の方々はとても礼儀正しく、いつも笑顔であいさつをしてくれます。一部悪いイメージがあるかもしれませんが、新宿区にお住まいの外国人の方々は良いイメージです。新宿区はとても住みやすいまちで私は好きです。10年前に比べて治安は良くなっていると思います。（女性／40歳代／戸塚）
- 外国人の引き起こすトラブルが多い。巻き込まれて不愉快に思うことが多い。ごみ出しなどは本当にルールを守らない。新宿区はワンルームマンションが多いため、特に外国人が多い。（女性／50歳代／戸塚）
- 「多文化共生のまちづくり」はとても良いことと思います。これからも推進して行ってください。（女性／70歳以上／笹笠町）
- 人々が自由に意見を述べたり、行動できるような雰囲気になれば良いと思います。公園に行くとき外国人が大勢いるので、コミュニケーションを取るために、外国語が話せるようになりたいと思います。（男性／60歳代／笹笠町）
- 神楽坂はとても住み良いまちだと感じています。今まで私の周りでは、もめごとは一度もありません。外国人の方もとても明るく、良い人が多いと感じます。（女性／60歳代／笹笠町）
- 総論賛成、各論反対と言われるように、外国文化との融合も、より身近になるとアレルギーを発する恐れがあります。そのハードルを低くするのは相互理解だと思います。日本人が一方的ではなく、双方がそれぞれ少しずつ歩み寄るべきだと思います。（男性／50歳代／笹笠町）
- 「広い世界を家とせよ」と言いますが、新宿区に暮らす10人に1人が外国人とは知りませんでした。差別なく、物事の道理を理解しあい、事件がなく安心・安全に暮らせるように、助け合っていきたいと思います。（女性／70歳以上／笹笠町）
- 外国人の子どもの教育環境が気になります。四谷地区は子どもの数が減少しながらも、クラスには常に何名か外国人の親（片方でも）を持つ子どもがいました。コミュニケーションをとるよう

心掛け、大きなトラブルはありませんでしたが、子ども自身ができるだけ早く日本の文化や習慣に溶け込めるよう、フォローする体制が充実しているとよいと思います。(女性/50歳代/四谷)

○外国の方に、日本で生活する上でのマナー(日本人の常識)を理解していただかないと、地域社会には受け入れてもらえないと思います。そのための情報や教育が必要だと考えます。マナーが守れないと、「あの人は外国人だから」と偏見の目で差別されてしまうのではないのでしょうか。(男性/40歳代/大久保)

○日本人、外国人を問わず、相手の人権を尊重する。(女性/70歳以上/大久保)

○声を掛け合い、日本の生活習慣などを知ってもらい、共に気持ち良く生活できるよう、助け合いたい。(女性/70歳以上/榎町)

○特定の地域にかたまるとはならず、さまざまな地域でさまざまな国の人々が生活できるようにならないと、本当の意味での多文化共生とは言えないと思います。(男性/30歳代/榎町)

○新宿区民の1割が外国人だと知り驚いた。多文化共生のためには、外国人に日本の習慣をまず教えるべき。災害などの緊急時には自宅周辺の人のお世話になるのだから、まず引越してきたら日本人のように隣近所にあいさつに行くべきと伝えてほしい。(男性/70歳以上/榎町)

○職安通りには外国人が多いですが、“わがもの”顔で大騒ぎしていて、道路いっぱいになり、通行ができないことがたびたびあります。(女性/70歳以上/大久保)

○韓国で3年間生活した経験があります。そのとき、周囲にいた現地の人々から助けていただいたことを思い出しました。話をして理解し合うことが共生の第一歩だと思います。思いやり、やさしさの気持ちを持っておつき合ってきたらいいですね。(女性/50歳代/落合第一)

○居住者、短期・中長期とさまざまな居住希望があり、一律に行政サービスを考えるのはいかなものか。いたずらに予算を乱用するのは好ましくない。(男性/60歳代/落合第二)

○日本人の中にも、どこでもルールを守らずに困らせる人はたくさんいます。外国の人たちだけが悪いのではない。(女性/70歳以上/柏木)

○職安通りに大型の観光バスが複数台駐停車して、渋滞を引き起こしている。また、大変危険な状態が続いており、いつか事故が起きないかと心配。いつの間にか近所は外国人ばかりでいろいろな迷惑をかけられている状況で、「多文化共生」と言われてもピンと来ない。自分が住む場所ではなくなってしまったと感じています。(男性/40歳代/柏木)

○多文化共生が新宿区のためになぜ必要なのかを、日本人に説明する必要があると思います。どういうメリットがあるのか具体的に示してほしいです。(女性/30歳代/四谷)

○新宿区内に現在3万7000人の外国の方々が生きていることに驚いています。あまり実感がないのが正直なところです。私たちもこれからさらに増えるであろう外国人に、意識を持って交流を図っていかねばならないと思っています。外国人との交流会・イベントの紹介を、一段と区広報等でよろしく願います。(男性/60歳代/四谷)

○マナーの悪い外国人(観光客含)を、きちんと日本の文化に合うように指導してほしい。日本に住む以上は、日本語か英語を話して、日本のルールを守る外国人をもっと増やしてほしい。もちろん日本文化や日本人を大切に思っている外国人も多いですが。(女性/30歳代/四谷)

○もしまだヘイトスピーチがあるなら禁止したほうがいい。日本の恥。(女性/30歳代/四谷)

○新宿に「しんじゅく多文化共生プラザ」のようなものがあることを、このたび初めて知りました。これからも、外国の方が新宿に住んでよかったですと思われますよう、日本人と仲良く暮らしていきますよう、よろしく御尽力ください。(女性/60歳代/四谷)

- ヘイトスピーチのデモが、新宿あるいは日本のイメージを悪くしている、見ていても不快だ。日本人として対応できることはないのかと感じる。何らかの対応策を考えていかなければいけないのでは。(女性/50歳代/四谷)
- 身勝手な行動が目立ち、不愉快な思いをすることが多いです。あれでは、元々偏見など持っていない日本人でも、だんだん彼らを嫌いになってしまいます。「郷に入れば郷に従え」を、彼らにしっかり教える方法を考えていただきたいと願っています。これ以上日本人にガマンさせないでください。(女性/50歳代/若松町)
- 外国人主導にならず、新宿区を愛し住み続けてきた住民をもっと手厚く。(男性/50歳代/大久保)
- 外国人が多いというだけで、不安だの心配だのと思われてしまいがちな新宿区。外国人にとっても日本人にとってもマイナスです。新宿区には大学も多く留学経験者も多いです。そういう人をうまく生かして交流を図ってはどうか。(男性/30歳代/笹塚町)
- 外国人に限らず、ごみ出し等のルールも守られていません。集収日以外にも、道にごみが積まれている所がたくさんあります。(女性/50歳代/榎町)
- 外国人が日本(新宿)で共生していくには、何と言っても言葉の習得だと思います。そのために、すでに活動が行われている日本語教室の充実が必要だと考えます。(女性/50歳代/榎町)
- “多文化共生”をめざすのであれば、図書館の拡充が望まれる。特定の図書館に、特定の文化・言語資料が片寄っているような印象がある。(女性/30歳代/榎町)
- 外国人と言っても、昨日日本に来たばかりの人もいれば、何十年も、生まれたときから住んでいる人もいます。ただ国籍が外国という方です。その友人に選挙権がないのを、2～3年前に知り驚きました。かなり地域活動、PTA等でも活躍してくれている方もいます。子どもは保育園から高校まで、いろいろな国のクラスメートがいました。現代では当たり前だと思います。(女性/50歳代/榎町)
- 偏見を持つつもりはなくても、実際マナーの良くない外国人の方が多く、大人だけではなく子どものマナーもひどいと感じることが多々あります。都合が悪いときだけ「日本語が分からない」と言う人も多く見かけます。外国人同士のコミュニティだけでなく、最低限の日本でのルールを深く知ってもらうための、相互の関係が良くなるコミュニティが増えると良いと思います。(女性/30歳代/榎町)
- しんじゅく多文化共生プラザの利用頻度が増えるよう努力されたい。(男性/70歳以上/落合第一)
- 新宿区は、外国人にとっては比較的住みやすいと思います。区が率先して“多文化共生のまち新宿”というスローガンを掲げてこられたことが実を結んでいると感じます。しかし、友人や知人の話を聞くと、まだまだ差別もあります。特に住まいの差別が一番ひどいと聞きます。“外国人お断り”と堂々と書いてある賃貸物件を見ることは、外国人の方々には非常に辛いそうです。新宿区からこういう住まいの差別をなくして欲しいと切に願います。(女性/40歳代/大久保)
- 外国人のマナーについて、もう少し教育してほしい。彼らが「共生」という意識をきちんと持ってほしい。また、トラブルに発展した際の解決についての手立てを、区が積極的にしてくれないと、個人の努力だけで共生を押しつけられても困ると思う。(男性/40歳代/戸塚)
- こちらは日本語しか話せず意思の疎通が図りにくい。日常会話ぐらいの日本語ができればありが

たい。また、日本の生活習慣を知らないと周りの人を不快にさせてしまい、不利になってしまうのでは。気楽に外国の方々と交流を持てる場を増やし、偏見の少ない子どもたちから交流を進めたほうが良いと思う。(女性/50歳代/落合第一)

- しんじゅく多文化共生プラザというものがあることすら知らない人が多いのでは。このアンケートが送られてきた人には、区が前向きに多文化共生に向けて動いているのが伝わったと思うが、他の区民にも知らせて大々的に取り組んでほしいと思います。(女性/30歳代/落合第一)
- 米国に1年住んだが、外国人が多かった。外国人を皆「当たり前」と思い接していた。日本も、そうなってほしい。(女性/50歳代/落合第一)
- 新宿に住む外国人(他府県からの日本人でも)に、不動産業者でアパートのあっせんが決まった時点で、新宿区の条例やごみ分別、非常時の対応などの書類を渡すようにしてもらってはどうか。(女性/70歳以上/落合第一)
- 英語を教えてもらえる場を増やしてほしい。もっと英語がしゃべれるようになったら、外国人と交流できるようになり、もっと理解してあげられるような気がする。(女性/50歳代/柏木)
- 言葉の壁は大きい。あいさつだけでも、他国の言葉ですらだけで親近感もわくので、交流の場や無料の講座があればいいと思う。(女性/50歳代/柏木)
- 一時的な観光でなく他国に住みつくのであれば、受け入れ側ではなく、入国する側の決意が必要で、事前に生活習慣等の勉強が必要だと思います。決意もなく、自分が理解されていないと言うのはおかしい。日本側、新宿区側の対応が悪いと言う外国人の考え方がおかしい。(男性/30歳代/角筈・区役所)
- さまざまな理由で日本で暮らす方が多いと思いますので、新宿区がどのように住民に暮らしてほしいのか、具体的に意思表示をするべきであると思います。(女性/30歳代/角筈・区役所)
- 歌舞伎町の建物の11階にしんじゅく多文化共生プラザがあっても、一般区民とは無縁であり、一生行く機会がない人が大半だと思う。真に相互理解をめざすなら、日常生活のなかで目に付きやすい所で活動を行ってほしい。(男性/30歳代/筆筈町)
- 外国人のためのイベントや交流会を行うのではなく、地域で行われているイベントに参加してもらい交流を進めるほうが、交流する人が特定されず良いと考える。(男性/50歳代/筆筈町)
- 多文化共生を進めることに異論はないし、外国人に対する偏見・差別はなくしていかなければならないと思うが、やはり日本の地域が、いろいろな文化に染まって変わっていくことは好まない。日本人の良い面は、他の国の人々にも取り入れて暮らしてほしい。(女性/50歳代/落合第一)
- 差別や偏見をなくしていくには、子どもが小さいときから話をしたり、教育をしていくことが必要だと思います。大人になってから自分の考え方や価値感などを変えていくのは、容易なことではないと思うので。(女性/30歳代/戸塚)
- 外国人に向けた語学講座があるように、日本人が英語や中国語を低い価格設定でマスターできるような講座をお願いしたい。(女性/30歳代/戸塚)
- 多言語表記が不十分で、特に交通機関では職員による多言語での案内が必須だと思います。人身事故や災害時に、日本語での案内しか行われないので、何が起こったかわからず困っている外国の知人がいました。(女性/30歳代/戸塚)
- 絵、歌、踊りなど目に触れやすい文化は、日本人の理解を得やすいので、交流機会を持つことは大切です。しかし、それ以上に重要だと思うのは、日常生活の慣習への相互理解です。ごみ出し、そうじ、あいさつ、近所の行事、祭り、自室でのパーティーなど、日本人の(その地域の)日常

ルールを、より丁寧に外国人に説明することが今以上に求められます。知らないで起こる衝突、摩擦を減らせます。(男性/60歳代/戸塚)

- その地域のルールを守ってくだされば、特に問題はないと思います。重い荷物を駅の階段で持ってもらったことがあります。どこの国の人でも人柄ではと思います。(女性/70歳以上/落合第一)
- 少子高齢化は避けられない事実であり、外国人が日本人と同等の権利と義務を負担し、社会参加すること、地域がそれを受け入れることは、新宿区が模範的な地域として発展するために不可欠である。(男性/50歳代/大久保)
- 半年余りで3回ほど外国の方から道を聞かれました。語学の勉強が必要だと感じました。また、看板や標識の外国語表示も必要だと思いました。日本人が外国人を受け入れる態勢が整っていないのでは。(女性/40歳代/若松町)
- 英語、中国語など、新宿区に住んでいる比率の高い外国人が話す言語を話せるスタッフを増やす。(男性/50歳代/若松町)
- 外国人に部屋を貸すときに、貸し主、あるいは不動産屋が、ごみの出し方など、新宿区で作っている資料を必ず渡すよう義務付けてほしい。(女性/60歳代/若松町)
- 多文化共生、ますます多くなり当たり前のこととなると思います。お互いの生活習慣や文化を知ることが大事なことです。日本に暮らす人たちはより日本を知る努力をしてほしい。仲良くなるし、より自然に暮らせると思います。(女性/70歳以上/若松町)
- 「郷に入りては郷に従え」という言葉がある。外国人の方々が地元住民(日本人の住民)と同じルールのもとで暮らしていける環境づくりが必要ではないか。極端に外国人の方々に対して差別的・区別的、もしくは、一方で優遇策をとることではないと考える。(男性/20歳代/笹笠町)
- 自分も含めてですが、古くから住んでいる人は、日本の生活習慣や規則を当たり前のようになっています。外国人の方から見るととても不思議に思えるでしょう。日本(新宿)に住むにはその習慣に従わなくてはいけないと思いますが、私たち日本人にできることは、ある程度許容範囲を広げて、受け入れてあげるべきだと考えています。しかし、行政が進める規則は、何人であっても、守るべきだと考えます。(女性/50歳代/笹笠町)
- アンケートに記入してみて、外国人に対してあまり関心がないことに気付かされました。(女性/70歳以上/大久保)
- 狭いシェアハウスに異常な人数で暮らしている現状は、外国人にとっても近隣住民にとっても健全に思えません。住居環境を整えていくことを望みます。(男性/40歳代/落合第一)
- これからは、多文化・多民族共生の時代に向かうものと思います。その先端に新宿区が位置しているとも思えます。行政が先頭になって、がんばってください。手伝えることは一住民としてできる限り協力いたします。(男性/60歳代/大久保)
- 日本に来ている方々のほうが努力していると思います。日本人も海外へ行けば、その国に融合しようと日々努力されていると思いますから。一番大事なことは、受け入れる方々の気持ちの広さだと考えますので、私自身はそれほどの努力はありませんが、話しかけられれば、気持ちよく対応するようにしています。(女性/60歳代/落合第一)
- 職場や地域になじんでいる外国人には自然と偏見・差別がなくなると思うので、そうなるための支援が必要になると思います。(女性/20歳代/落合第二)